

ホームズ君の 絵でみるわが家の断熱診断書

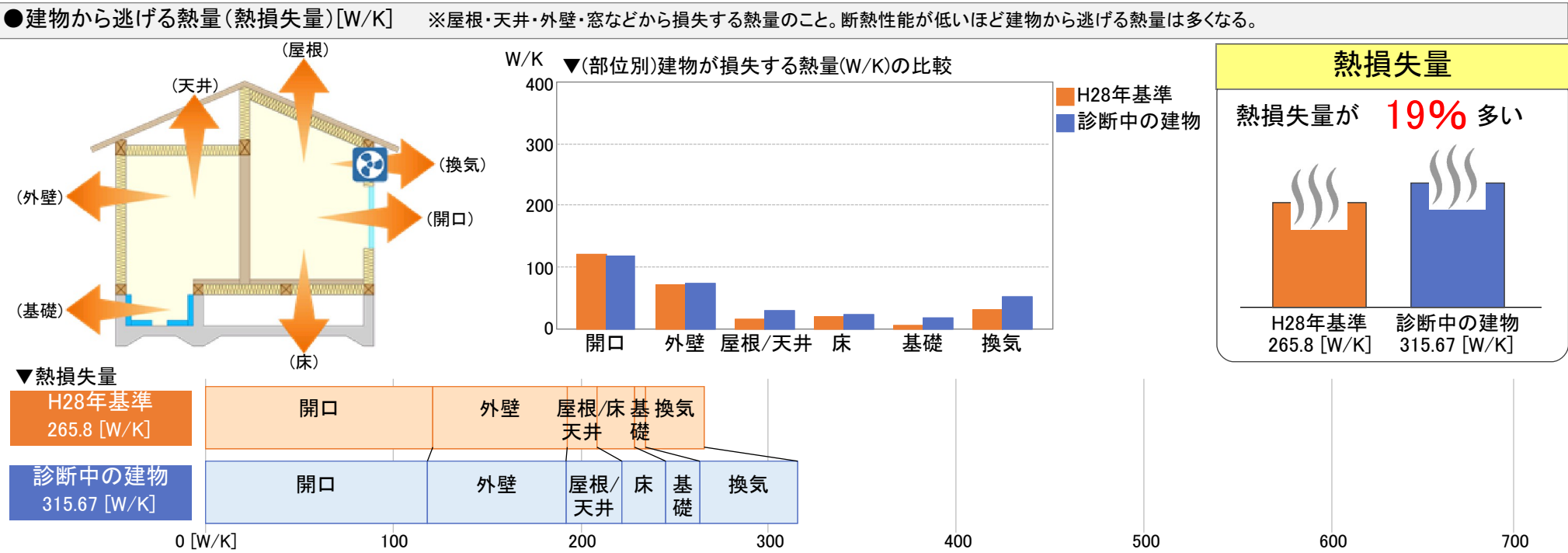
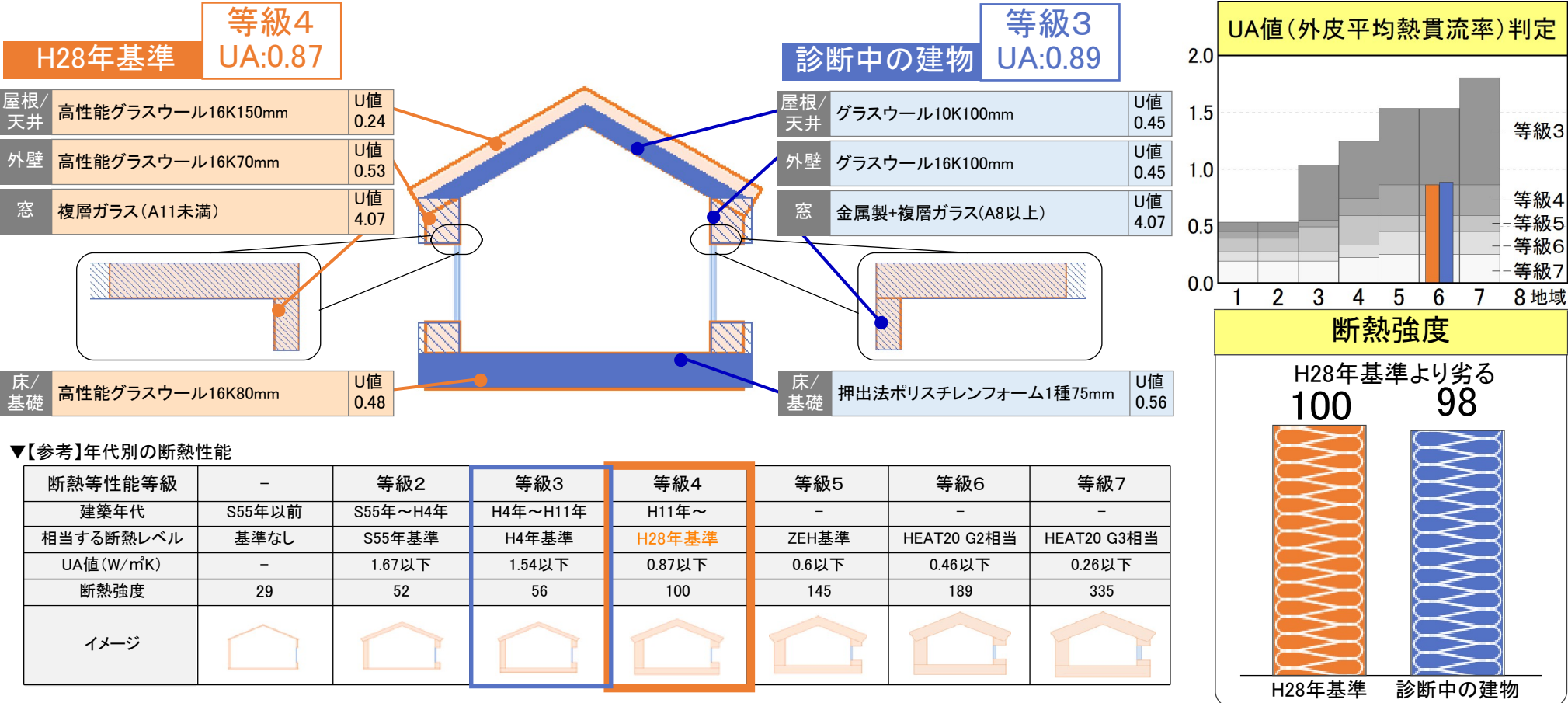
日付:2025年12月08日 9:47:54  
建物コード:000000  
建物名:テスト

邸名	テスト(現状プラン)	床面積	119.24㎡(1階:66.25㎡、2階:53.00㎡)
診断者	(株)宝優工務店 アスマイルリフォーム	宝優一級建築士事務所	地域区分
建築地	木津川市梅美台		6地域 (京都府-木津川市)

●断熱性能

■UA値(外皮平均熱貫流率):UA値(ユーエー値)とは床、外壁、屋根、天井や開口部などを通過して外部に逃げる熱量を、外皮全体で平均した値で、熱損失の合計を外皮面積の合計で除したものの値が小さいほど断熱性能、省エネ性能が高いことを示します。また、このUA値で品確法住宅性能表示制度の断熱等性能等級を判定します。省エネ基準に適合していれば等級4以上となります。

■断熱強度(熱の逃げにくさ):本システムにおける独自の指標です。H28年基準における断熱性能(熱の逃げにくさ)を100とした場合の診断中の建物の断熱性能の値で、H28年基準のUA値を診断中の建物のUA値で除し100倍したものです。値が100を下まわると、断熱性能はH28基準値より劣ると言えます。





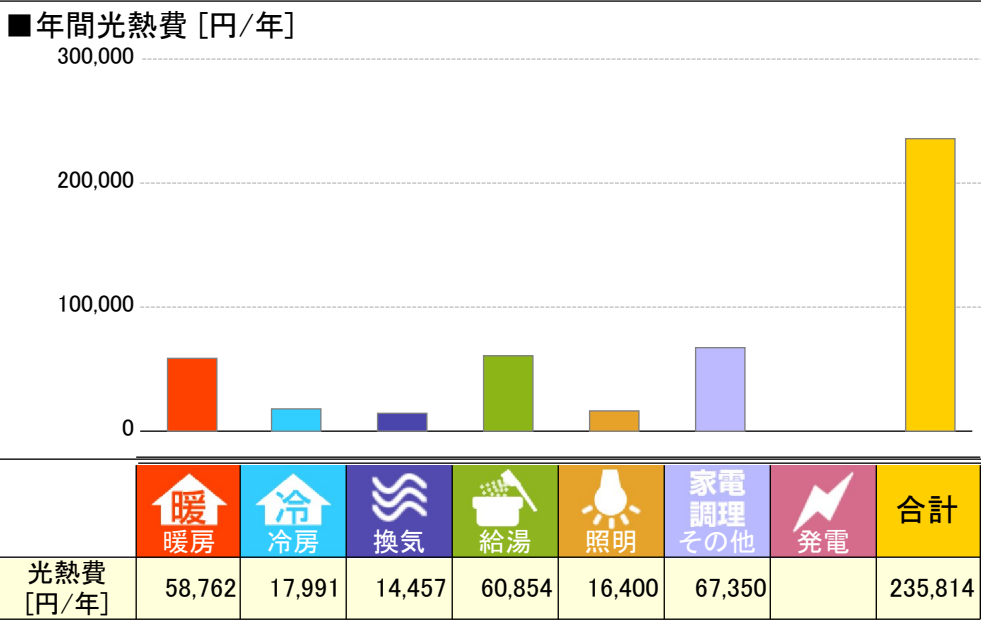
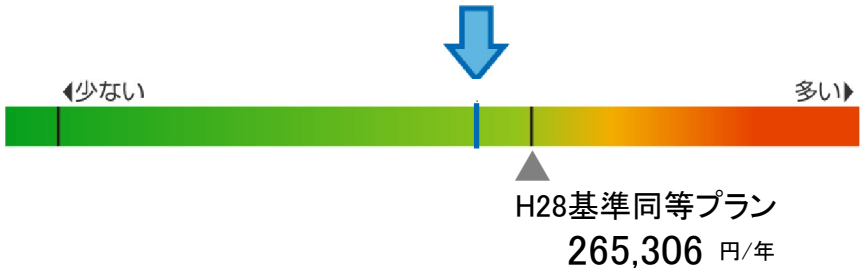
光熱費

一次エネルギー消費量の計算結果から、各設備ごとに使用される熱源の消費量をもとに光熱費を算出します。  
※比較プランの光熱費は次頁で示す外皮性能、一次エネルギー消費量の設備から計算しています。

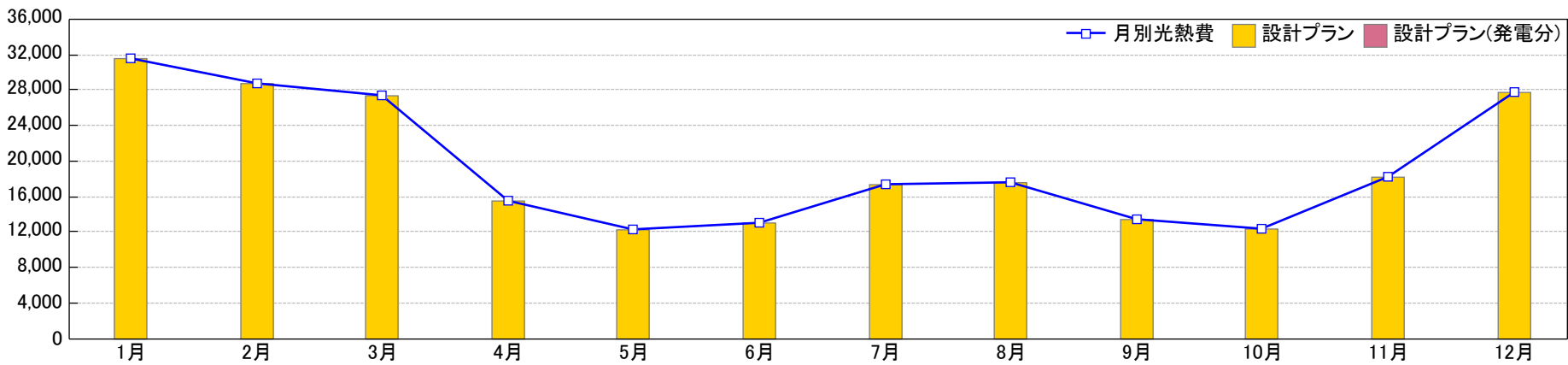
建物名	テスト
建設地	木津川市梅美台
省エネルギー基準 地域区分	6 京都府木津川市
延床面積 [㎡]	119.24



設計プランの光熱費 235,814 円/年  
※発電分を含む



■月別光熱費 [円/月] ※発電分を含む



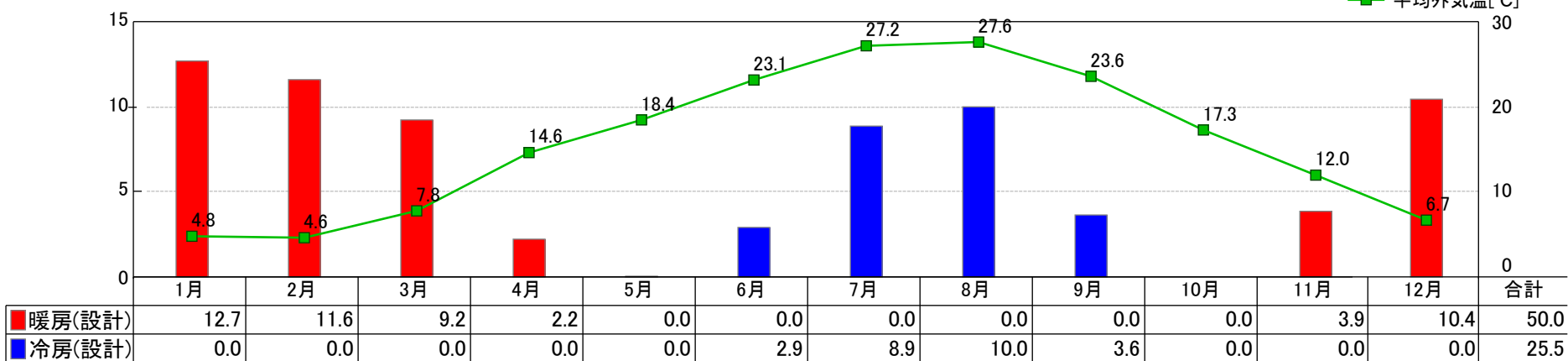
■月平均光熱費 [円/月] ※発電分を除く



暖冷房負荷

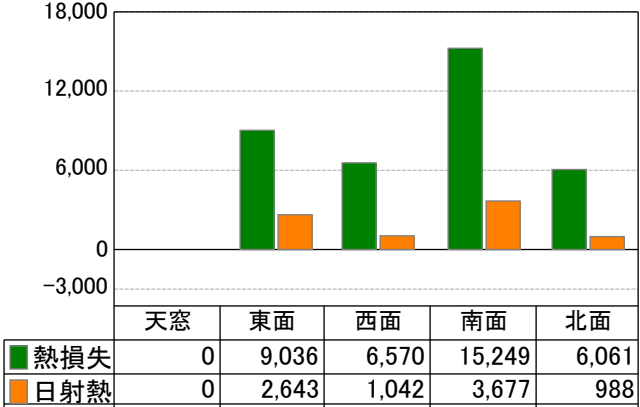
暖冷房負荷とは、室温を設定温度に維持するために必要となるエネルギー量であり、値が小さいほど外皮の省エネルギー性能が高いと言えます。燃費シミュレーションでは、暖房期は20℃、冷房期は27℃を室温の設定温度としています。

■暖冷房負荷 [kWh/㎡]

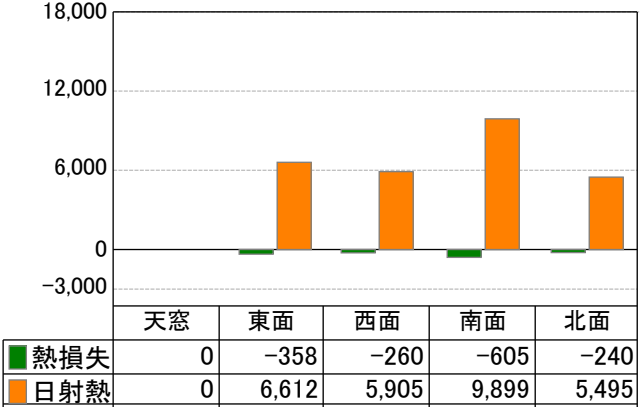


■窓からの1日あたりの熱損失、日射熱取得量

▼暖房期[Wh]



▼冷房期[Wh]

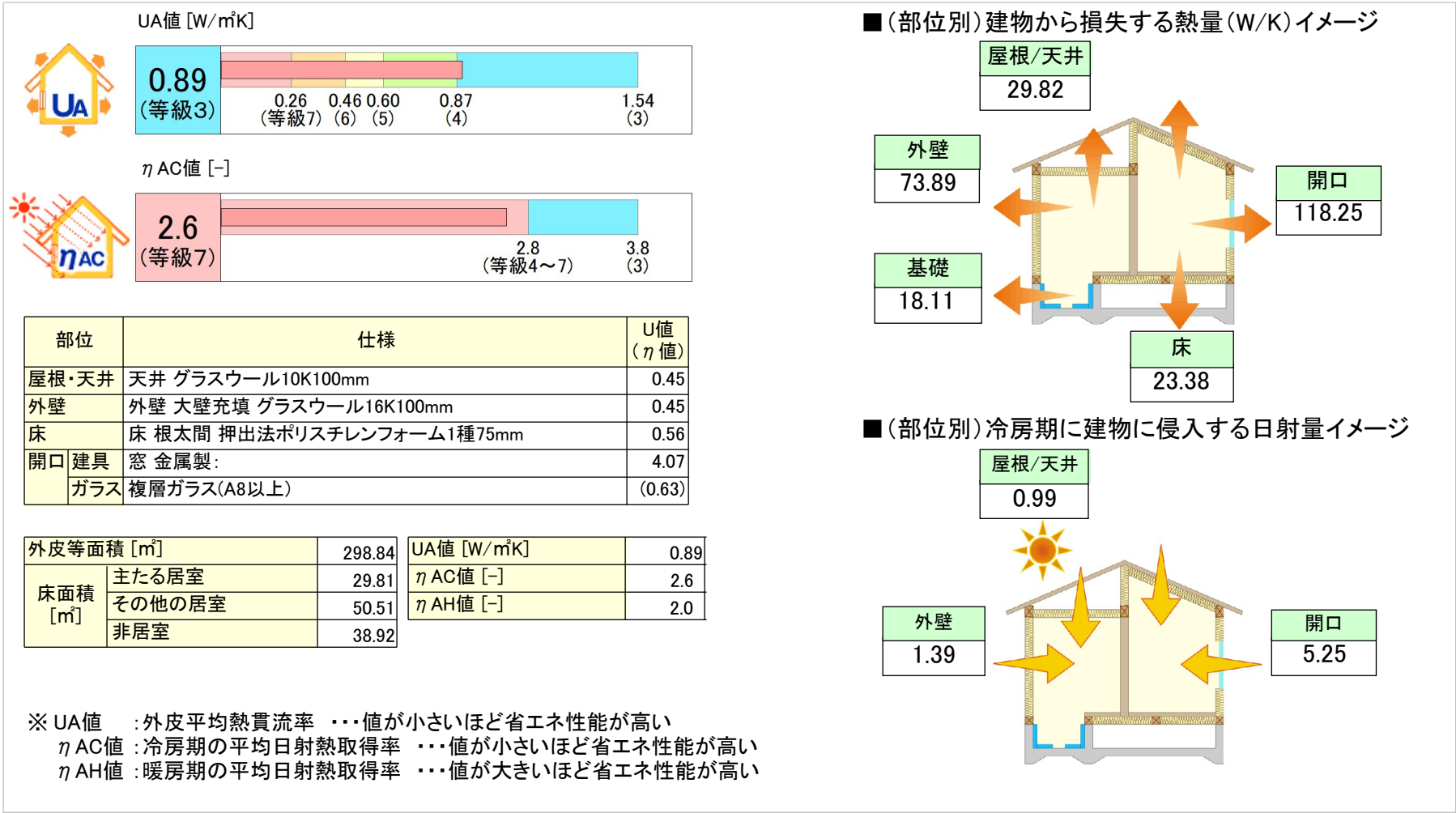


※暖房期においては、日射熱取得量を大きくし、窓からの熱損失を抑えることで、暖房効率が高くなります。  
冷房期においては、日射熱取得量と窓からの熱損失の両方を抑える事で、冷房効果が高くなります。  
気象条件や窓の性能によっては、冷房期の窓からの熱損失がマイナスの値(外気から熱を取り込む)となる場合もあります。  
その場合は窓からの熱損失が0に近いほど、冷房効果が高くなると言えます。



外皮性能

断熱仕様や建物の規模から算出したUA値、 $\eta$  AC値、 $\eta$  AH値および、居室の種類ごとの面積によって、一次エネルギー消費量の値が変わります。  
断熱性能が高いほど、一次エネルギー消費量の値が小さくなり、光熱費が抑えられます。



■ (部位別) 建物から損失する熱量 (W/K) イメージ

屋根/天井 29.82

外壁 73.89

開口 118.25

基礎 18.11

床 23.38

■ (部位別) 冷房期に建物に侵入する日射量 イメージ

屋根/天井 0.99

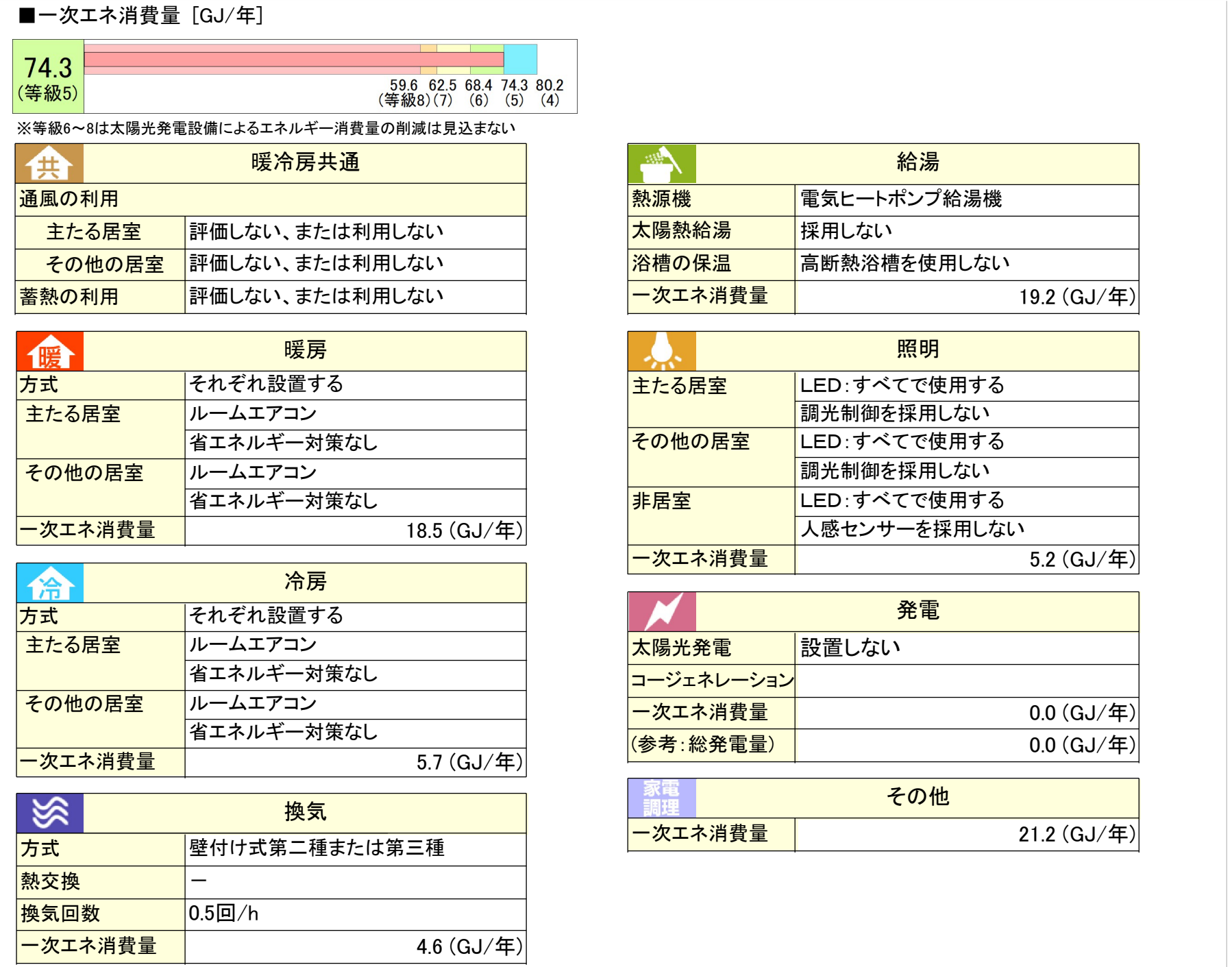
外壁 1.39

開口 5.25



一次エネルギー消費量

・化石燃料、原子力燃料、水力・太陽光など自然から得られるエネルギーを「一次エネルギー」といいます。  
また、これらを変換・加工して得られるエネルギー（電気、灯油、都市ガス等）を「二次エネルギー」といいます。  
建築物では二次エネルギーが多く使用されており、それぞれ異なる単位 (kWh、MJ等) で使用されています。  
それを一次エネルギー消費量へ換算することにより、総エネルギー消費量を同じ単位で求めることができます。





平成28年  
省エネ基準

日付：2025年12月08日 9:45:15

# 【住宅性能表示】 断熱等性能等級



建物名 テスト

1. 断熱等性能等級判定表
2. 外皮平均熱貫流率 ( $U_A$  値) 計算表
3. 冷房期の平均日射熱取得率 ( $\eta_{AC}$  値) 計算表
4. 外皮性能算定平面図
5. 結露防止の基準判定表
6. 断熱仕様明細表
7. 断熱仕様別面積計算表
8. 建物の基準高さ
9. 屋根・天井設定図
10. 外皮等面積計算表
11. 外皮等面積根拠図
12. 一次エネルギー消費量 算定条件(※)
13. 居室面積計算表(※)
14. 居室面積根拠図(※)
15. 暖房期の平均日射熱取得率 ( $\eta_{AH}$ 値) 計算表(※)

(株)宝優工務店 アスマイルリフォーム  
宝優一級建築士事務所

住所：木津川市山城町椿井畑岡31-1

TEL:0120-583-088

Mail:info@ho-yu-koumuten.com

※一次エネルギー消費量の算出の根拠となる項目です。  
この項目は公益財団法人日本住宅・木材技術センターの「木造建築物電算プログラム認定」の認定範囲外です。

# 注意事項



ホームズ君「省エネ診断 エキスパート」(以下、本ソフトウェア)は、公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施している「木造建築物電算プログラム認定」において、一般社団法人住宅性能評価・表示協会「低炭素建築物認定に係る技術的審査マニュアル(2013住宅編)」および、国立研究開発法人建築研究所ウェブサイト「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」に記載された計算方法に準拠しているとして、認定書(認定番号:P04-04)の交付を受けております。  
認定対象の計算書・図面の用紙右上に「木造建築物電算プログラム認定」の認定番号が印字され、認定マークが表紙及び本注意事項のページに表記されます。

## 【認定の範囲】

本ソフトウェアの認定の範囲を下表にて示します。本ソフトウェアの全機能が認定対象ではありませんのでご注意ください。本ソフトウェアの利用者、並びに本ソフトウェアの計算結果を確認する立場の方は、認定の範囲を十分理解の上、ご利用いただきますようお願いいたします。

### ▼本ソフトウェアの全機能における認定の範囲

●:認定対象    ー:認定対象外

分類	認定 範囲	機能	関係法令等
平成11年基準	ー	温熱環境	平21国土交通省告示第354号
平成25年基準	●	外皮性能	平25経済産業省・国土交通省告示第1号、平25国土交通省告示第907号
	ー	一次エネルギー消費量	平25経済産業省・国土交通省告示第1号、平25国土交通省告示第907号
平成28年基準	●	外皮性能	平28経済産業省・国土交通省令第1号 令4経済産業省・国土交通省令第2号 平28国土交通省告示第265号 令4国土交通省告示第1104号
	ー	一次エネルギー消費量	平28経済産業省・国土交通省令第1号 令4経済産業省・国土交通省令第2号 平28国土交通省告示第265号 令4国土交通省告示第1104号

分類	認定 範囲	機能	関係法令等
住宅性能表示	ー	省エネルギー対策等級	平21国土交通省告示第354号
	●	断熱等性能等級	令4国土交通省告示第1108号
	ー	一次エネルギー消費量等級	令4国土交通省告示第1108号

## 【木造建築物電算プログラム認定とは】

公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施しているプログラム認定制度です。

目的は、木造建築物電算プログラムに係る認定を行うことを通じて、木造建築物の品質性能および生産性の向上に寄与し、もって木造建築物の関連産業の発展と国民生活の向上に貢献することとなっています。

認定にあたっては、学識経験者で構成する「木造建築物電算プログラム認定委員会」が設置され電算プログラムの適切さ(根拠図書との準拠性、論拠の明確性、プログラム処理の妥当性、誤用防止策等)や運用の適切さ(メンテナンスや苦情処理体制等)について審査が行われます。

# 注意事項



## 【断熱等性能等級 計算上の注意点】

### ■認定の範囲

- ・本ソフトウェアは、令和3年4月1日に施行された改正建築物省エネ法（以下、平成28年省エネルギー基準）に対応しています。
  - ・平成28年省エネルギー基準をもとにした等級判定は、「断熱等性能等級」と「一次エネルギー消費量等級」に分かれていますが、認定対象は「断熱等性能等級」のみとなります。
  - ・平成28年省エネルギー基準における評価方法は性能基準（標準計算ルート）、仕様基準（仕様ルート）がありますが、本計算書は性能基準（標準計算ルート）による評価を行います。
  - ・断熱等性能等級判定における、部位の熱貫流率（U値）の算定方法は以下の方法に対応しています。
    - 1) 簡略計算法・・・○対応
    - 2) 詳細計算法・・・○対応
    - 3) 部位別仕様表・・・○対応
  - ・部位のU値の計算方法として 2) 詳細計算法を用いる場合は、設計者は断熱部位と熱橋部位の面積比率の算出根拠を別途ご用意ください。
  - ・本ソフトウェアでは、「設計者が任意に部材や仕様を登録できる項目」があります。本ソフトウェアの利用者ならびに本ソフトウェアの計算結果を確認する立場の方は、この点を十分理解のうえ、ご利用ください。
    - 「設計者が任意に部材や仕様を登録できる項目」
      - 1) 熱貫流率マスタ（屋根、天井、外壁、開口部、床、基礎）
      - 2) 材料の熱伝導率マスタ
      - 3) 日射熱取得率マスタ
- ※設計者が任意に登録した項目は★マークと網掛けで強調表示されます。

平成28年  
省エネ基準

## 1. 断熱等性能等級判定表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

## 【建物条件】

建物名	テスト		
建築地名	木津川市梅美台		
省エネルギー基準地域区分	6地域 (京都府木津川市)		
外皮等面積 (㎡)	298.84㎡	建物方位	330.0度
断熱区分	天井断熱	—屋根断熱—	床下断熱 —基礎断熱—

## 【総合判定】

断熱等性能等級

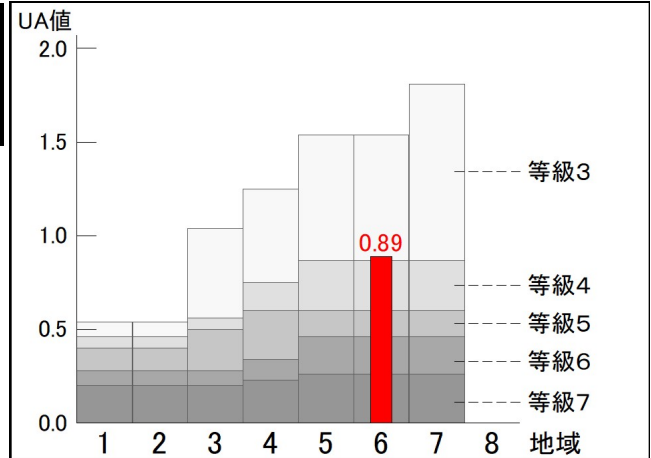
等級1

- 住宅性能表示制度および長期優良住宅の「評価方法基準」(平成13年国土交通省告示第1347号 最終改正 令和4年国土交通省告示第1108号)に基づき等級判定を行います。
- 外皮平均熱貫流率( $U_A$ 値)と冷房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AC}$ 値)と結露防止の基準の各等級で最も低い等級を「断熱等性能等級」とします。

▼外皮平均熱貫流率  $U_A$  値 (W/㎡K)

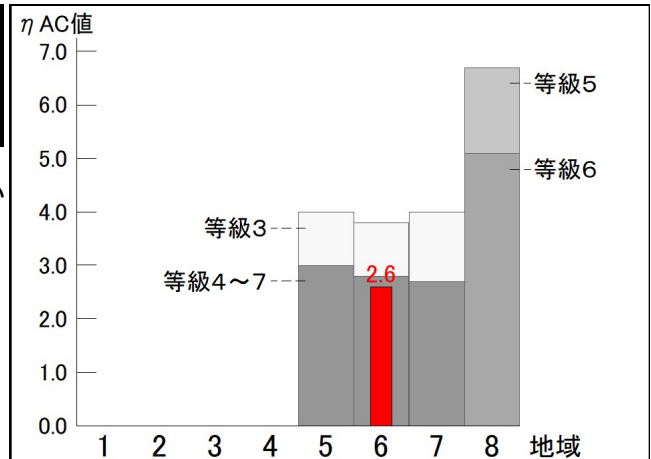
基準値						算定値	判定
等級2	等級3	等級4	等級5	等級6	等級7		
1.67	1.54	0.87	0.60	0.46	0.26	0.89	等級3
以下	以下	以下	以下	以下	以下		

- 「建物内外の温度差が1℃の場合の部位の熱損失量の合計」を「外皮等面積」で除した値
- 値が小さいほど熱が通りにくく、省エネ性能が高い
- 等級4の基準は、平成28年省エネ基準レベル

▼冷房期の平均日射熱取得率  $\eta_{AC}$  値 (-)

基準値					算定値	判定
等級3	等級4	等級5	等級6	等級7		
3.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.6	等級7
以下	以下	以下	以下	以下		

- 「冷房期の日射熱取得量」を「外皮等面積」で除した値
- 値が小さいほど日射熱を取得しにくく、省エネ性能が高い
- 等級4の基準は、平成28年省エネ基準レベル



## ▼結露防止の基準

判定  
等級1

結露が発生することで、断熱性能・耐久性を損なうおそれがあります。防湿層の設置、及び通気層を確保することで、結露の発生を防止します。

## 【参考】

平成28年省エネ基準(外皮性能) × 不適合

- 「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令の一部を改正する省令」(令和4年経済産業省・国土交通省令第2号)に基づき判定を行います。
- 外皮平均熱貫流率( $U_A$ 値)と冷房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AC}$ 値)の両方が基準を満たす場合に「適合」となります。

平成28年  
省エネ基準2. 外皮平均熱貫流率( $U_A$  値)計算表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

部位	仕様	外皮等面積 A (㎡)	付属 部材	熱貫流率 U (W/㎡K)	温度差係数 H	熱損失量 A・U・H (W/K)	熱損失の 割合 (%)
天井	天井 グラスウール10K100mm	66.25	-	0.45	1.00	29.82	11.3
外壁	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	128.35	-	0.45	1.00	57.76	28.0
	妻壁 大壁充填 無断熱	6.89	-	2.34	1.00	16.13	
窓	窓 金属製:複層ガラス(A8以上)	16.58	0	4.07	1.00	67.49	38.4
	窓 金属製:複層ガラス(A8以上)	9.64	1	3.49	1.00	33.65	
ドア	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	4.90	0	3.49	1.00	17.11	6.5
床	床 根太間 押出法ポリスチレンフォーム1種75mm	59.62	-	0.56	0.70	23.38	8.9
① 基礎等を除く部位の熱損失量の合計 (W/K)						245.34	93.1
基礎等	仕様	長さ L (m)	線熱貫流率 Ψ (W/mK)	温度差係数 H	熱損失量 L・Ψ・H(W/K)	熱損失の 割合 (%)	
	外気側:KI-05	5.915	1.80	1.00	10.65		
	床裏側:KI-05	5.915	1.80	0.70	7.46		
② 基礎等の熱損失量の合計 (W/K)						18.11	6.9
熱損失量の合計 q = ①+② (W/K)						263.5	
外皮等面積の合計 ΣA (㎡)						298.84	
外皮平均熱貫流率 U <sub>A</sub> 値 = q/ΣA (W/㎡K)						0.89	

 $\Sigma A$ : ①における $A$ の合計と、土間床等面積の合計の和(土間床等面積は「外皮等面積計算表(床・土間床・基礎)」を参照)

付属部材(開口部に設置される付属部材の種類等)

0: なし、1: シャッター又は雨戸、2: 障子、3: 熱的境界の外部にある風除室

付属部材が付与された開口部の熱貫流率 $U$ の計算式

シャッター又は雨戸、障子の場合

$$U = 0.5U_d + 0.5U_{dr} \quad U_{dr} = 1 / ((1 / U_d) + \angle Ratc)$$

熱的境界の外部に存する風除室の場合

$$U = 1 / ((1 / U_d) + 0.1)$$

 $U_d$ : 窓又はドアの熱貫流率 $U_{dr}$ : 付属部材が付与された又は風除室に面する窓又はドアの熱貫流率

付属部材の種類等	熱抵抗 $\angle Ratc$
シャッター又は雨戸	0.10
障子	0.18

※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

※▲付きの仕様: 断熱改修により追加、変更された部分



平成28年  
省エネ基準3. 冷房期の平均日射熱取得率  
( $\eta_{AC}$  値) 計算表 < 1 >

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

外皮等面積の合計 $\Sigma A$ (㎡)	298.84
(い)窓の日射熱取得量 (W/(W/㎡))	5.247
(ろ)窓以外の日射熱取得量 (W/(W/㎡))	2.387
冷房期の日射熱取得量 $mC = (い) + (ろ)$ (W/(W/㎡))	7.63
冷房期の平均日射熱取得率 $\eta_{AC} = mC / \Sigma A \times 100$ (%)	2.6

## 【窓以外の日射熱取得量】

方位	方位係数 $\nu_c$	仕様	外皮等面積 $A$ (㎡)	熱貫流率 $U$ (W/㎡K)	日射熱取得率 $\eta_c$ (W/㎡)/(W/㎡)	日射熱取得量 $A \cdot \eta_c \cdot \nu_c$ (W/(W/㎡))
上面	1.000	天井 グラスウール10K100mm	66.25	0.45	0.015	0.994
北東	0.431	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	25.11	0.45	0.015	0.163
	0.431	妻壁 大壁充填 無断熱	6.89	2.34	0.080	0.238
	0.431	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	3.24	3.49	0.119	0.167
	0.431	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	3.24	3.49	0.119	0.167
南東	0.498	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	37.26	0.45	0.015	0.279
南西	0.491	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	26.53	0.45	0.015	0.196
	0.491	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	1.66	3.49	0.119	0.097
北西	0.427	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	39.45	0.45	0.015	0.253
下面	0.000	床 根太間 押出法ポリスチレンフォーム1種75mm	59.62	0.56	0.019	0.000
(ろ)窓以外の日射熱取得量 合計 (W/(W/㎡))						2.387

※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

※▲付きの仕様: 断熱改修により追加、変更された部分

日射熱取得率  $\eta_c$  $\eta_c = 0.034 \times f_a \times f_{shC} \times U$  (冷房期の日よけ効果係数  $f_{shC}$  および 外気側表面に応じた係数  $f_a$  は1.0として計算)▼冷房期の方位係数  $\nu_c$ 

方位	省エネルギー基準地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
屋根・上面	1.000							
北	0.329	0.341	0.335	0.322	0.373	0.341	0.307	0.325
北東	0.430	0.412	0.390	0.426	0.437	0.431	0.415	0.414
東	0.545	0.503	0.468	0.518	0.500	0.512	0.509	0.515
南東	0.560	0.527	0.487	0.508	0.500	0.498	0.490	0.528
南	0.502	0.507	0.476	0.437	0.472	0.434	0.412	0.480
南西	0.526	0.548	0.550	0.481	0.520	0.491	0.479	0.517
西	0.508	0.529	0.553	0.481	0.518	0.504	0.495	0.505
北西	0.411	0.428	0.447	0.401	0.442	0.427	0.406	0.411
下面	0.000							

平成28年  
省エネ基準3. 冷房期の平均日射熱取得率  
( $\eta_{AC}$  値)計算表<2>

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

## 【窓の日射熱取得量】

方位	方位 係数 $\nu_c$	階	窓 番号	開口名	開口 仕様	遮蔽 物	窓幅 X2 (mm)	窓 高さ Y2 (mm)	外皮等 面積 A (㎡)	日よけ						取得日射熱 補正係数			日射熱 取得率		日射熱 取得量
										距離			長さ			fshC	fangC	fC	$\eta_d$	$\eta_c$	$A \cdot \eta_c \cdot \nu_c$ (W/(W/㎡))
										X1 (mm)	X3 (mm)	Y1 (mm)	Zx+ (mm)	Zx- (mm)	Zy+ (mm)						
北東	0.431	1	#2		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.157
	0.431	2	#3		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.377
	0.431	2	#4		261	0	690	700	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.122
	0.431	2	#5		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.377
南東	0.498	1	#6		261	2	1,650	1,100	1.82	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.140	0.131	0.119
	0.498	1	#7		261	1	1,650	1,100	1.82	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.300	0.280	0.254
	0.498	2	#8		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.435
	0.498	2	#9		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.435
南西	0.491	1	#11		261	2	2,730	2,200	6.01	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.140	0.131	0.387
	0.491	2	#12		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.429
	0.491	2	#13		261	0	1,650	2,200	3.63	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	1.045
北西	0.427	1	#14		261	0	300	1,800	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.136
	0.427	1	#15		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.156
	0.427	1	#16		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.156
	0.427	2	#17		261	0	740	900	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.168
	0.427	2	#18		261	0	690	700	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.121
	0.427	2	#19		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.930	0.630	0.586	0.373
(い)窓の日射熱取得量 合計 (W/(W/㎡))																				5.247	

※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

※太枠で囲まれた欄: 断熱改修により変更された部分

## ▼開口仕様

261: 金属製: 複層ガラス(A8以上)

## ▼遮蔽物

0: 遮蔽物なし 1: 和障子 2: 外付ブラインド

## ▼日よけ

(規): 規定値4,000mmとして計算

(4m): 4,000mm以上のため、4,000mmとして計算

## ▼取得日射熱

補正係数fC(定)は、定数fC=0.93を使用していることを表す。

## ▼日射熱取得率

 $\eta_d$ : 垂直面日射熱取得率(窓と付属部材の組み合わせで定まる $\eta$ 値) $\eta_c$ : 日射熱取得率  $\eta_d \times fC$

平成28年  
省エネ基準

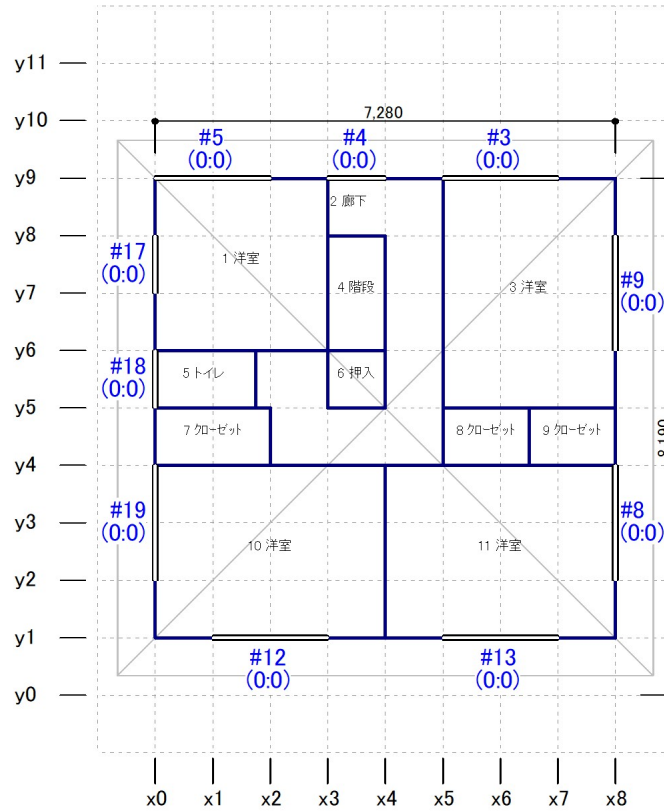
## 4. 外皮性能算定平面図

日付: 2025年12月08日 9:45:15

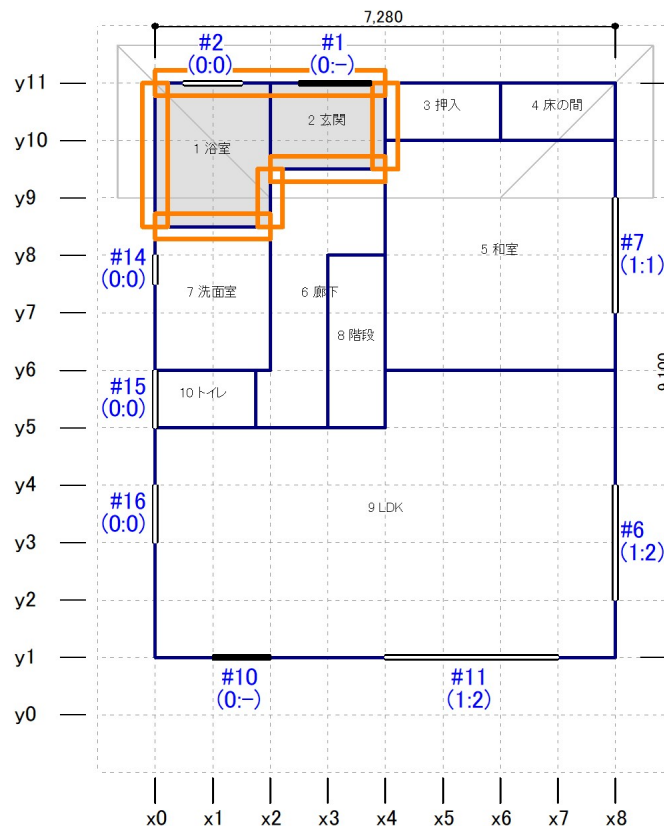
建物コード: 000000

建物名: テスト

2階



1階



縮尺 1/120



- 【凡例】
- 壁
  - 開口部(ドア)
  - 開口部(窓)
  - トップライト
  - 土間床
  - 小屋裏収納等
  - 底
  - 基礎断熱範囲(仕様K1-05)
  - 基礎断熱範囲(仕様部分変更)
  - 付属部材:遮蔽物
  - 付属部材番号 0:なし 1:シャッターもしくは雨戸 2:障子 3:熱的境界の外にある風除室
  - 遮蔽物番号 0:なし 1:和障子 2:外付ブラインド
  - <0> 熱的境界外の空間 1:外気 2:外気に通じる空間 3:外気に通じていない空間 4:住戸及び住戸と同様の熱的環境の空間 5:住戸

平成28年  
省エネ基準

## 5. 結露防止の基準判定表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

## (a) 防湿層の設置

- ☐ 透湿抵抗の小さい断熱材(※)を使用する場合は防湿層を設ける。  
または次の(i)から(v)のいずれかに該当する。
- ☐ (i) 【等級6】地域区分が8である。
- ☐ (ii) コンクリート躯体又は土塗り壁の外側に断熱層がある。
- ☐ (iii) 床断熱において、断熱材下側が床下に露出する又は湿気の排出を妨げない構成となっている。
- ☐ (iv-1) 【等級4以上】断熱層が単一の材料で均質に施工される場合、「(室内側)透湿抵抗の合計/(室外側)透湿抵抗の合計」の値が次の基準値以上である。
- ・地域区分1、2、3: 5以上(屋根または天井の場合は、6以上)
  - ・地域区分4 : 3以上(屋根または天井の場合は、4以上)
  - ・地域区分5、6、7: 2以上(屋根または天井の場合は、3以上)
- ☐ (iv-2) 【等級3】断熱層が単一の材料で均質に施工される場合、「(室内側)透湿抵抗の合計/(室外側)透湿抵抗の合計」の値が次の基準値以上である。
- ・地域区分1、2、3: 4以上(屋根または天井の場合は、5以上)
  - ・地域区分4 : 2以上(屋根または天井の場合は、3以上)
  - ・地域区分5、6、7: 2以上
- ☐ (v) (i)(ii)(iii)(iv)に掲げるものと同等以上の結露の発生防止に有効な措置が講じられていることが確かめられる。
- ☐ 透湿抵抗の小さくない断熱材を使用しており、上記に掲げるものと同等以上の結露の発生の防止に有効な措置がある。

## (b) 通気層の設置

- ☐ 屋根または外壁を断熱構造とする場合にあっては、断熱層の外気側への通気層の設置、その他の換気上有効な措置を講じる。  
または次の(i)から(v)のいずれかに該当する。
- ☐ (i) 当該部位が鉄筋コンクリート造、組積造等で、躯体の耐久性能を損なうおそれがない。
- ☐ (ii-1) 【等級6以上】地域区分が1、2、3以外、かつ防湿層が $0.144\text{m}^2\text{sPa/ng}$ 以上の透湿抵抗を有する。
- ☐ (ii-2) 【等級5】地域区分が1、2以外、かつ防湿層が $0.082\text{m}^2\text{sPa/ng}$ 以上の透湿抵抗を有する。
- ☐ (iii) 【等級5】地域区分が1、2以外、かつ断熱層の外側にALCパネル又はこれと同等以上の断熱性および吸湿性を有する材料を用いる場合で、防湿層が $0.019\text{m}^2\text{sPa/ng}$ 以上の透湿抵抗を有する場合、又はこれと同等以上の措置を講ずる。
- ☐ (iv-1) 【等級7】(a)の(iv-1)に該当する。
- ☐ (iv-2) 【等級6】(a)の(i)地域区分が8である場合、又は(a)の(iv-1)に該当する。
- ☐ (v) (i)(ii)(iii)(iv)に掲げるものと同等以上の結露の発生防止に有効な措置が講じられていることが確かめられる。

結露防止の基準 判定

等級1

※結露防止の基準 判定

- 等級7 : 「a 防湿層の設置」「b 通気層の設置」の両方の基準に適合
- 等級6 : 等級7と同等
- 等級5 : 「a 防湿層の設置」に適合し、「b 通気層の設置」において(ii-2)又は(iii)に適合
- 等級4 : 等級5と同等
- 等級3 : 「a 防湿層の設置」のみ適合
- 等級2 : 「a 防湿層の設置」「b 通気層の設置」においては同等
- 等級1 : 「a 防湿層の設置」のいずれの基準にも適合しない

※透湿抵抗の小さい断熱材とは

グラスウール、ロックウール、セルローズファイバー等の繊維系断熱材、プラスチック系断熱材(日本工業規格A9511(発泡プラスチック保温材)に規定するもの、日本工業規格A9526(建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム)に規定する吹付け硬質ウレタンフォームA種1又はA種2に適合するもの及びこれらと同等以上の透湿抵抗を有するものを除く。)



平成28年  
省エネ基準

## 6. 断熱仕様明細表

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

断熱仕様No	500	U値 (W/㎡K)	0.45	計算方法	簡略計算法
断熱仕様名	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm				
備考					
構法	木造軸組構法				
使用部位	外壁	通気層有無	有(外気側表面熱伝達抵抗Rse=0.11)		

				面積比率 a						
				断熱部	熱橋部					
				0.830	0.170					
部材名	備考	熱伝導率 λ (W/mK)	厚さ d(mm)	熱抵抗 R = d / λ (㎡K/W)						
室内側表面熱伝達抵抗 Rsi		－	－	0.110	0.110					
内装下地材－ せっこうボード(GB-R、GB-D、GB-L、 GB-NC)	JIS A6901 (2014)	0.221	9.5	0.043	0.043					
※空気層－ その他の空気層		－	5.0	0.090	0.090					
※柱－ 天然木材	技術情報	0.120	100.0	－	0.833					
充填断熱材－ グラスウール断熱材 16K相当	技術情報	0.045	100.0	2.222	－					
外装下地材－ 合板	技術情報	0.160	12.0	0.075	0.075					
外気側表面熱伝達抵抗 Rse		－	－	0.110	0.110					
各部分の熱貫流抵抗 (㎡K/W)      Rt = Rse＋Rsi＋ ∑ R				2.650	1.261					
各部分の熱貫流率 (W/㎡K)      Ui = 1 / Rt				0.377	0.793					
熱貫流率 (W/㎡K)      U = ∑ (a×Ui) / ∑ a				0.45						

備考欄に「技術情報」と記載されている部材の出典:

国立研究開発法人 建築研究所「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」

★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

面積比率aは、簡略計算法 に基づく。

- ・木造軸組構法
- ・工法の種類等: 柱・間柱間に断熱する場合

## ■表記の説明

- ※ → 断熱材と熱橋部の厚さが異なる場合、熱橋部の厚さは、断熱材の厚み分までを算入します。  
断熱材の厚さを超える部分が密閉されている場合は、その部分を密閉空気層とみなして熱貫流率を計算します。
- # → 外張断熱において、断熱材が連続せず熱橋を有しているため、断熱材の熱抵抗Riに0.9を乗じて計算します。

平成28年  
省エネ基準

## 6. 断熱仕様明細表

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

断熱仕様No	711	U値 (W/㎡K)	0.45	計算方法	簡略計算法
断熱仕様名	天井 グラスウール10K100mm				
備考					
備考2					
構法	枠組壁工法				
使用部位	天井				

					面積比率 a					
					断熱部					
					1.000					
部材名	備考	熱伝導率 $\lambda$ (W/mK)	厚さ d(mm)	熱抵抗 $R = d / \lambda$ (㎡K/W)						
室内側表面熱伝達抵抗 $R_{si}$		-	-	0.090						
せつこうボード(GB-R、GB-D、GB-L、GB-NC)	JIS A6901 (2014)	0.221	9.5	0.043						
グラスウール断熱材 通常品 10-50	JIS A9521 (2014)	0.050	100.0	2.000						
外気側表面熱伝達抵抗 $R_{se}$		-	-	0.090						
各部分の熱貫流抵抗 (㎡K/W)	$R_t = R_{se} + R_{si} + \sum R$				2.223					
各部分の熱貫流率 (W/㎡K)	$U_i = 1 / R_t$				0.450					
熱貫流率 (W/㎡K)	$U = \sum (a \times U_i) / \sum a$				0.45					

備考欄に「技術情報」と記載されている部材の出典:

国立研究開発法人 建築研究所「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」

★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

面積比率aは、簡略計算法 に基づく。

- ・枠組壁工法
- ・工法の種類等: 熱橋がない場合

平成28年  
省エネ基準

## 6. 断熱仕様明細表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

断熱仕様No	390	U値 (W/㎡K)	2.34	計算方法	簡略計算法
断熱仕様名	妻壁 大壁充填 無断熱				
備考					
構法	木造軸組構法				
使用部位	妻壁	通気層有無	有(外気側表面熱伝達抵抗Rse=0.11)		

				面積比率 a						
				断熱部	熱橋部					
				0.830	0.170					
部材名	備考	熱伝導率 λ (W/mK)	厚さ d(mm)	熱抵抗 R = d / λ (㎡K/W)						
室内側表面熱伝達抵抗 Rsi		－	－	0.110	0.110					
内装下地材－ せっこうボード(GB-R、GB-D、GB-L、 GB-NC)	JIS A6901 (2014)	0.221	9.5	0.043	0.043					
※空気層－ その他の空気層		－	105.0	0.090	0.090					
※小屋束－ 天然木材	技術情報	0.120	0.0	－	－					
外装下地材－ 合板	技術情報	0.160	12.0	0.075	0.075					
外気側表面熱伝達抵抗 Rse		－	－	0.110	0.110					
各部分の熱貫流抵抗 (㎡K/W) Rt = Rse + Rsi + Σ R				0.428	0.428					
各部分の熱貫流率 (W/㎡K) Ui = 1 / Rt				2.337	2.337					
熱貫流率 (W/㎡K) U = Σ (a × Ui) / Σ a				2.34						

備考欄に「技術情報」と記載されている部材の出典:

国立研究開発法人 建築研究所「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」

★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

面積比率aは、簡略計算法 に基づく。

- ・木造軸組構法
- ・工法の種類等: 柱・間柱間に断熱する場合

## ■表記の説明

- ※ → 断熱材と熱橋部の厚さが異なる場合、熱橋部の厚さは、断熱材の厚み分までを算入します。  
断熱材の厚さを超える部分が密閉されている場合は、その部分を密閉空気層とみなして熱貫流率を計算します。
- # → 外張断熱において、断熱材が連続せず熱橋を有しているため、断熱材の熱抵抗Riに0.9を乗じて計算します。

平成28年  
省エネ基準

## 6. 断熱仕様明細表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

断熱仕様No	974	U値 (W/㎡K)	0.56	計算方法	簡略計算法
断熱仕様名	床 根太間 押出法ポリスチレンフォーム1種75mm				
備考					
構法	木造軸組構法				
使用部位	床	床属性	その他の床		

				面積比率 a						
				断熱部	熱橋部					
				0.800	0.200					
部材名	備考	熱伝導率 λ (W/mK)	厚さ d(mm)	熱抵抗 R = d / λ (㎡K/W)						
室内側表面熱伝達抵抗 Rsi		－	－	0.150	0.150					
床下地材－ 合板	技術情報	0.160	12.0	0.075	0.075					
根太－ 天然木材	技術情報	0.120	75.0	－	0.625					
根太間充填断熱材－ 押出法ポリスチレンフォーム 保温板 1種	技術情報	0.040	75.0	1.875	－					
外気側表面熱伝達抵抗 Rse		－	－	0.150	0.150					
各部分の熱貫流抵抗 (㎡K/W) Rt = Rse＋Rsi＋Σ R				2.250	1.000					
各部分の熱貫流率 (W/㎡K) Ui = 1 / Rt				0.444	1.000					
熱貫流率 (W/㎡K) U = Σ (a×Ui) / Σ a				0.56						

備考欄に「技術情報」と記載されている部材の出典:

国立研究開発法人 建築研究所「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」

★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

面積比率aは、簡略計算法 に基づく。

- ・木造軸組構法
- ・工法の種類等: 束立大引工法 根太間に断熱する場合

## ■表記の説明

- ※ → 断熱材と熱橋部の厚さが異なる場合、熱橋部の厚さは、断熱材の厚み分までを算入します。  
断熱材の厚さを超える部分が密閉されている場合は、その部分を密閉空気層とみなして熱貫流率を計算します。
- # → 外張断熱において、断熱材が連続せず熱橋を有しているため、断熱材の熱抵抗Rに0.9を乗じて計算します。



平成28年  
省エネ基準

## 6. 断熱仕様明細表

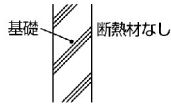
日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

## 【部位別仕様】

部位別仕様No	KI-05
部位別仕様名	無断熱

部位	熱貫流率 U (W/m <sup>2</sup> K)	仕様の詳細	断面構成図
基礎	4.45	無断熱の鉄筋コンクリート構造の場合	

※線熱貫流率 $\Psi$ は1.80 (W/mK)とする。

平成28年  
省エネ基準

## 7. 断熱仕様別面積計算表

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

分類	部材名	方位	階	区画	面積(㎡)	部材・方向別 面積合計(㎡)	部材別 面積合計(㎡)	
天井	天井 グラスウール10K100mm	上面	1	A	13.2496000	66.25	66.25	
			2	B	52.9984000			
外壁/妻壁	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	北東	1	A1	14.3390000	25.11	128.35	
			2	C2	0.6624800			
				C4	0.6624800			
				C6	9.4471600			
		南東	1	D1	19.1200000	37.26		
				D2	2.9120000			
			2	E1	15.2300000			
		南西	1	F1	13.4470000	26.53		
			2	G1	13.0850000			
		北西	1	H1	20.9680000	39.45		
				H2	2.9120000			
			2	I1	15.5660000			
	妻壁 大壁充填 無断熱	北東	1	B1	2.9120000	6.89		6.89
			2	C1	0.6624800			
				C3	2.6499200			
				C5	0.6624800			
窓	金属製：複層ガラス(A8以上)	北東	1	#2	0.6210000	4.07	26.21	
			2	#3	1.4850000			
				#4	0.4830000			
				#5	1.4850000			
		南東	1	#6	1.8150000	6.60		
				#7	1.8150000			
			2	#8	1.4850000			
				#9	1.4850000			
		南西	1	#11	6.0060000	11.12		
			2	#12	1.4850000			
				#13	3.6300000			
		北西	1	#14	0.5400000	4.42		
				#15	0.6210000			
				#16	0.6210000			
			2	#17	0.6660000			
				#18	0.4830000			
#19	1.4850000							
ドア	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし：複層ガラス(ド	北東	1	#1	3.2400000	3.24	4.90	
		南西	1	#10	1.6590000	1.66		
床	床 根太間 押出法ポリスチレンフォーム1種75mm	下面	1	a	12.4215000	59.62	59.62	
				b	14.0777000			
				c	33.1240000			

※「区画」は外皮等面積根拠図および外皮等面積計算表を参照  
 ※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

平成28年  
省エネ基準

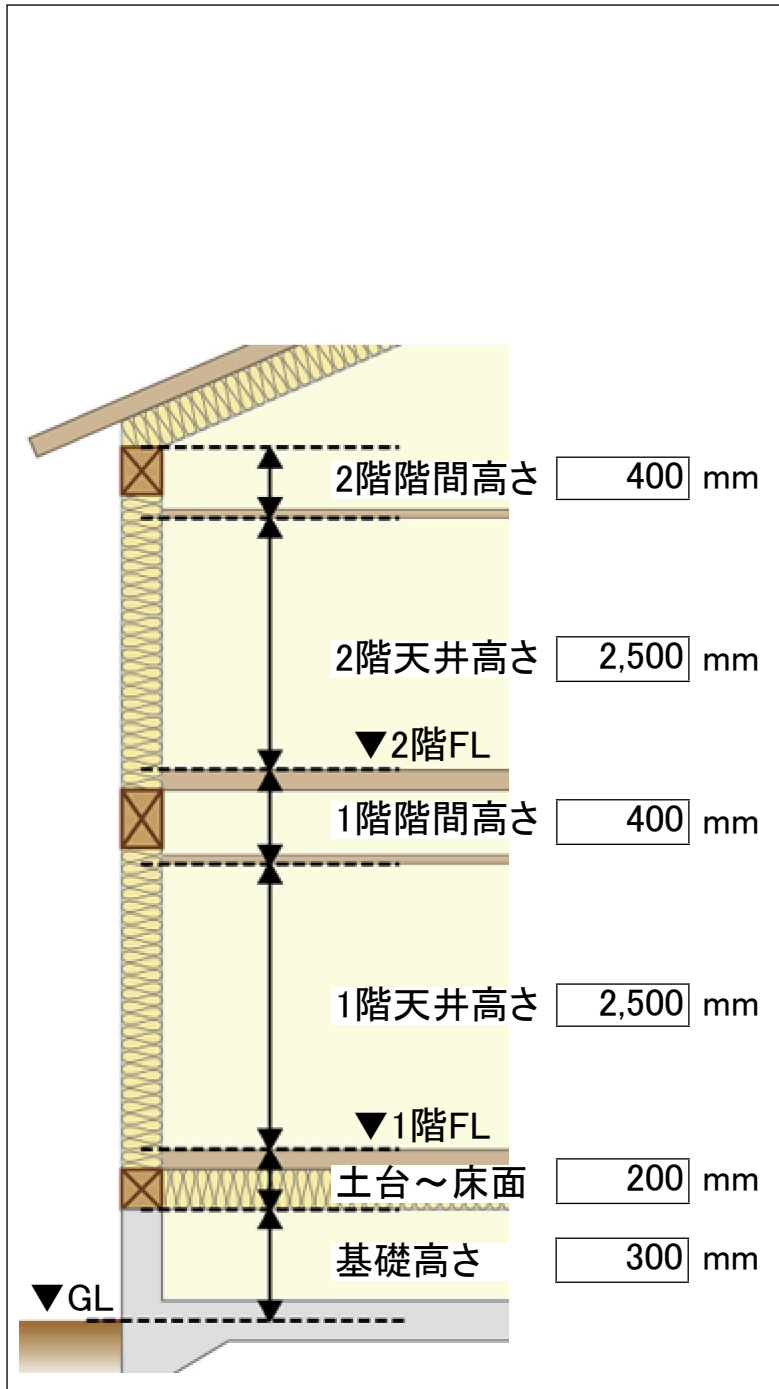
## 8. 建物の基準高さ

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

各階の天井高さ、階間高さ等は以下の寸法で設計しています。  
部分的に天井高さが異なる範囲については、「9. 屋根・天井設定図」を参照してください。



- 最上階の階間高さ : 最上階の天井下端～桁上端
- 階間高さ : 当該階の天井下端～上階の床上端
- 天井高さ : 当該階の床上端～当該階の天井下端
- 土台～床面 : 基礎立ち上り上端～1階の床上端
- 基礎高さ : GL～基礎立ち上り上端

平成28年  
省エネ基準

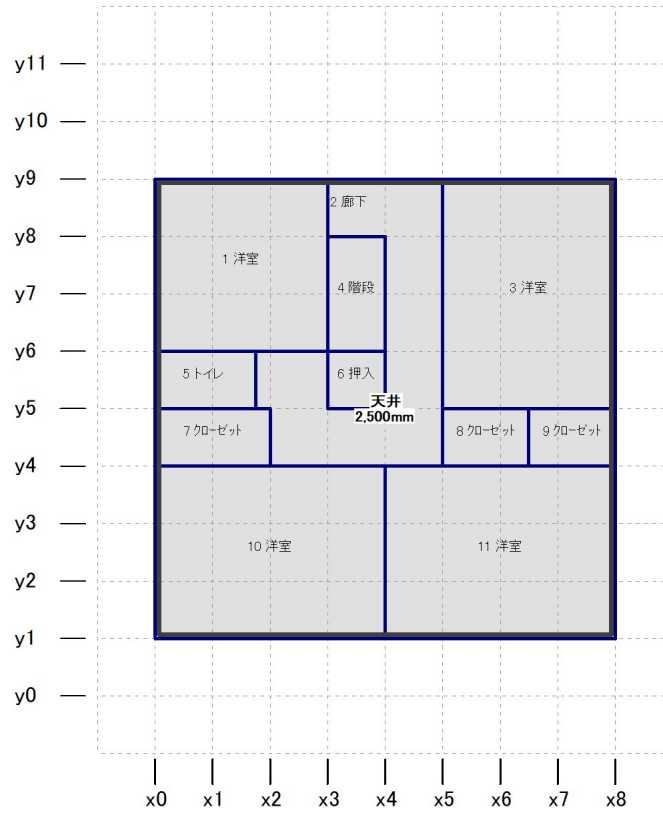
## 9. 屋根・天井設定図

日付: 2025年12月08日 9:45:15

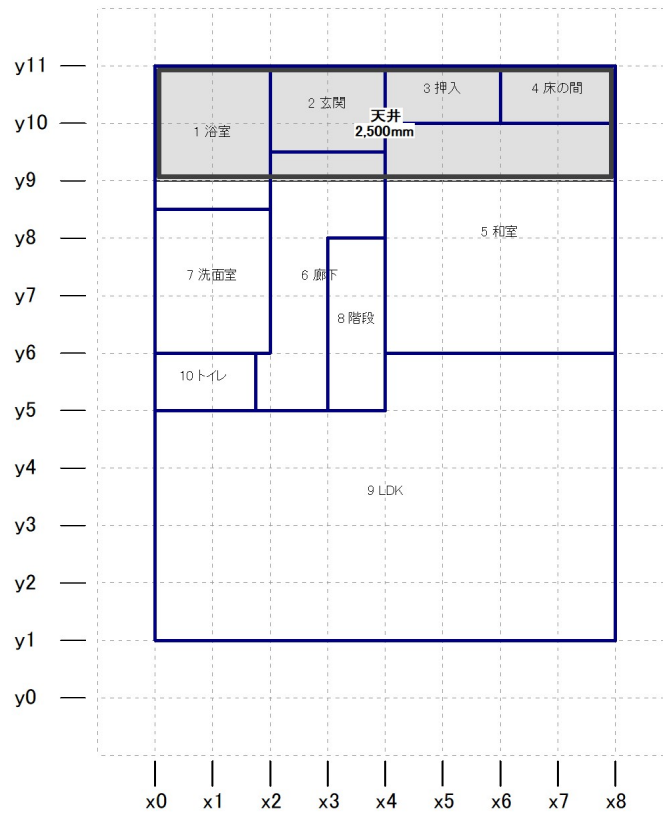
建物コード: 000000

建物名: テスト

2階



1階



縮尺 1/120

【凡例】 ■ 屋根断熱範囲 ■ 天井断熱範囲 ■ バルコニー下断熱範囲





平成28年  
省エネ基準

## 10. 外皮等面積計算表(屋根・天井)

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

## 【天井面積 計算表】

階	区画	勾配(寸)	計算式	面積( $m^2$ )
1	A	0.00	$7.280 \times 1.820$	13.2496000
2	B	0.00	$7.280 \times 7.280$	52.9984000
合計				66.2480000

平成28年  
省エネ基準

## 10. 外皮等面積計算表(外壁)

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

## 【外壁面積 計算表】

方位	階	分類	区画	計算式	面積(m <sup>2</sup> )
北東	1	外壁	A1	$7.280 \times 2.500 - \#1 - \#2$	14.3390000
		小屋壁	B1	$7.280 \times 0.400$	2.9120000
	2	小屋壁	C1	$1.820 \times 0.728 \div 2$	0.6624800
		外壁	C2	$1.820 \times 0.728 \div 2$	0.6624800
		小屋壁	C3	$3.640 \times 0.728$	2.6499200
		外壁	C4	$1.820 \times 0.728 \div 2$	0.6624800
		小屋壁	C5	$1.820 \times 0.728 \div 2$	0.6624800
		外壁	C6	$7.280 \times 1.772 - \#3 - \#4 - \#5$	9.4471600
南東	1	外壁	D1	$9.100 \times 2.500 - \#6 - \#7$	19.1200000
			D2	$7.280 \times 0.400$	2.9120000
	2	外壁	E1	$7.280 \times 2.500 - \#8 - \#9$	15.2300000
南西	1	外壁	F1	$7.280 \times 2.900 - \#10 - \#11$	13.4470000
	2	外壁	G1	$7.280 \times 2.500 - \#12 - \#13$	13.0850000
北西	1	外壁	H1	$9.100 \times 2.500 - \#14 - \#15 - \#16$	20.9680000
			H2	$7.280 \times 0.400$	2.9120000
	2	外壁	I1	$7.280 \times 2.500 - \#17 - \#18 - \#19$	15.5660000
合計					135.2380000

## 【開口面積 計算表】

方位	階	分類	区画	計算式	面積(㎡)
北東	1	ドア	#1	1.350×2.400	3.2400000
		窓	#2	0.690×0.900	0.6210000
	2	窓	#3	1.650×0.900	1.4850000
		窓	#4	0.690×0.700	0.4830000
		窓	#5	1.650×0.900	1.4850000
南東	1	窓	#6	1.650×1.100	1.8150000
		窓	#7	1.650×1.100	1.8150000
	2	窓	#8	1.650×0.900	1.4850000
		窓	#9	1.650×0.900	1.4850000
南西	1	ドア	#10	0.790×2.100	1.6590000
		窓	#11	2.730×2.200	6.0060000
	2	窓	#12	1.650×0.900	1.4850000
		窓	#13	1.650×2.200	3.6300000
北西	1	窓	#14	0.300×1.800	0.5400000
		窓	#15	0.690×0.900	0.6210000
		窓	#16	0.690×0.900	0.6210000
	2	窓	#17	0.740×0.900	0.6660000
		窓	#18	0.690×0.700	0.4830000
		窓	#19	1.650×0.900	1.4850000
合計					31.1100000

平成28年  
省エネ基準

## 10. 外皮等面積計算表(床・土間床・基礎)

日付:2025年12月08日 9:45:15

建物コード:000000

建物名:テスト

## 【床面積 計算表】

階	区画	計算式	面積(m <sup>2</sup> )
1	a	$1.820 \times 6.825$	12.4215000
	b	$1.820 \times 7.735$	14.0777000
	c	$3.640 \times 9.100$	33.1240000
合計			59.6232000

## 【土間床面積 計算表】

区画	計算式	面積(m <sup>2</sup> )
Da	$1.820 \times 2.275$	4.1405000
Db	$1.820 \times 1.365$	2.4843000
合計		6.6248000

## 【基礎周長 計算表】

区画	基礎長さ(m)
A	3.6400000
B	1.3650000
C	2.2750000
D	1.8200000
E	0.9100000
F	1.8200000
合計	11.8300000

※基礎高さ0.4m以下のため、基礎は外皮面積に含めない。

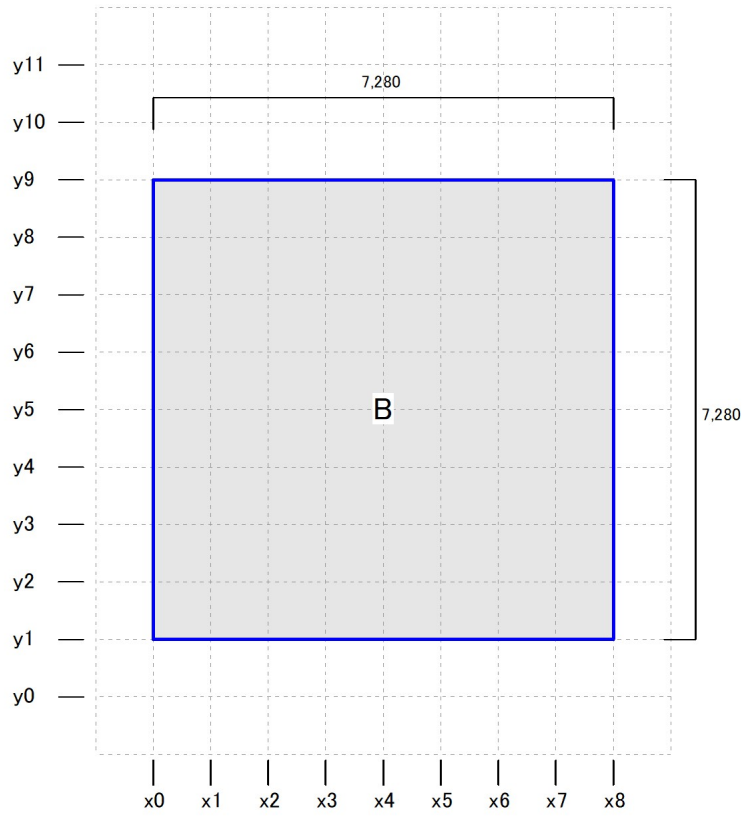
平成28年  
省エネ基準11. 外皮等面積根拠図  
(屋根・天井)

日付: 2025年12月08日 9:45:15

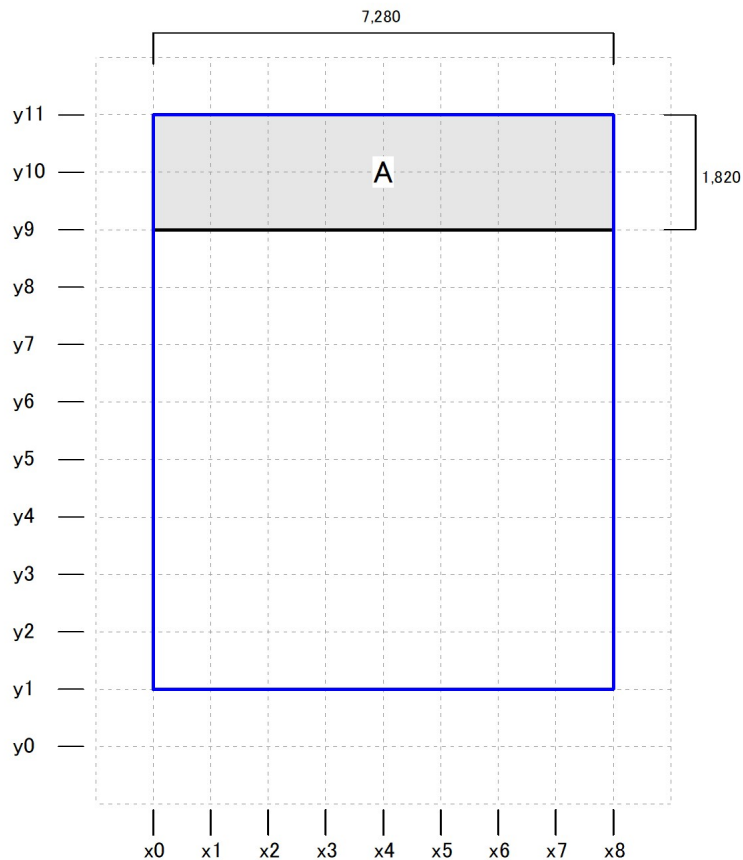
建物コード: 000000

建物名: テスト

2階



1階



縮尺 1/120



【凡例】  
 天井断熱範囲  屋根断熱範囲  外周線  トップライト  
 バルコニー下天井断熱範囲  バルコニー下梁桁間断熱範囲





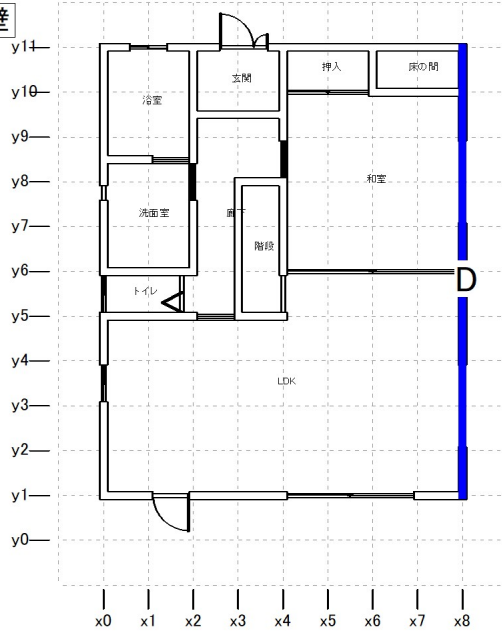
平成28年  
省エネ基準11. 外皮等面積根拠図  
(外壁<南東>)

日付:2025年12月08日 9:45:15

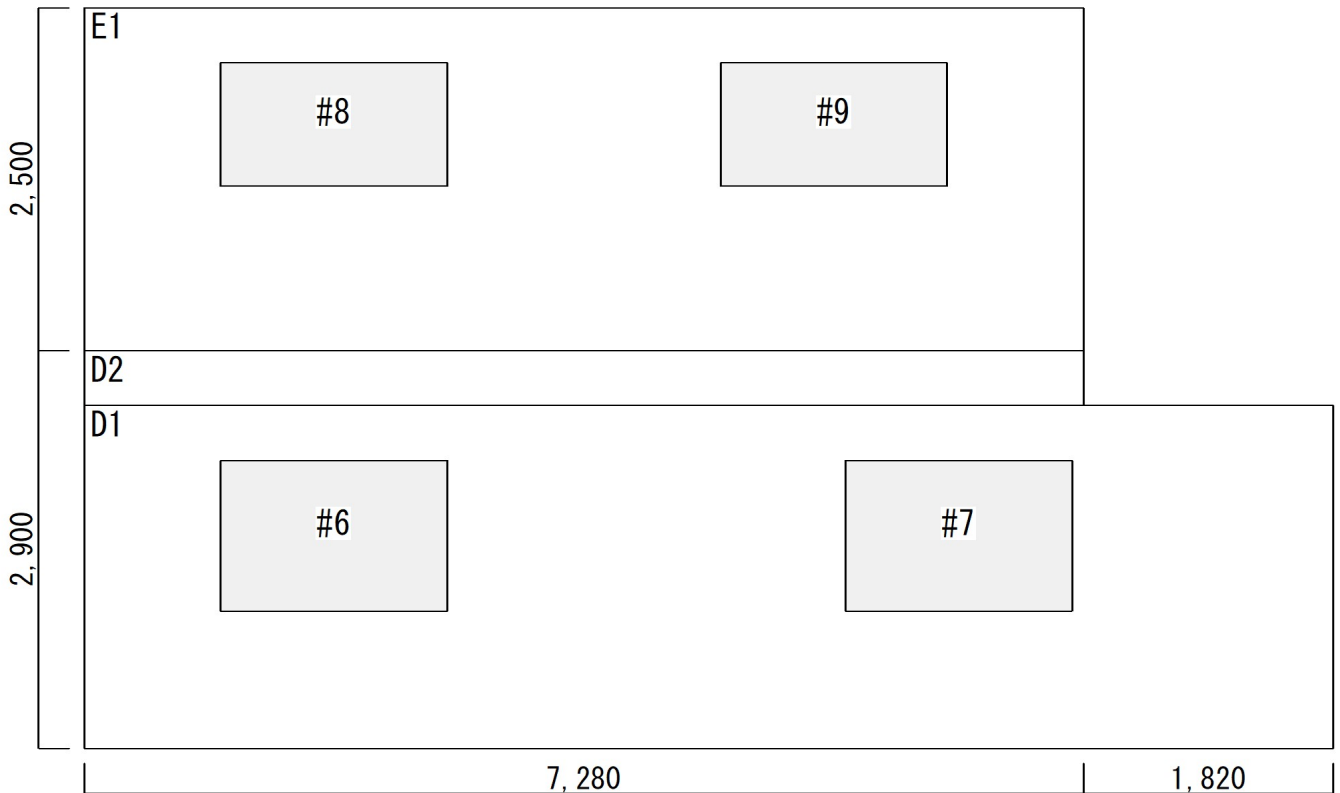
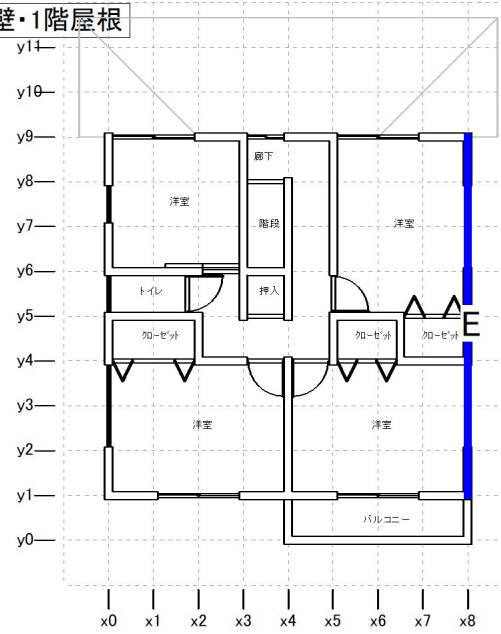
建物コード:000000

建物名:テスト

1階壁



2階壁・1階屋根



アルファベット大文字(A1、A2・・・):外壁 #数字(#1、#2・・・):開口部

平成28年  
省エネ基準

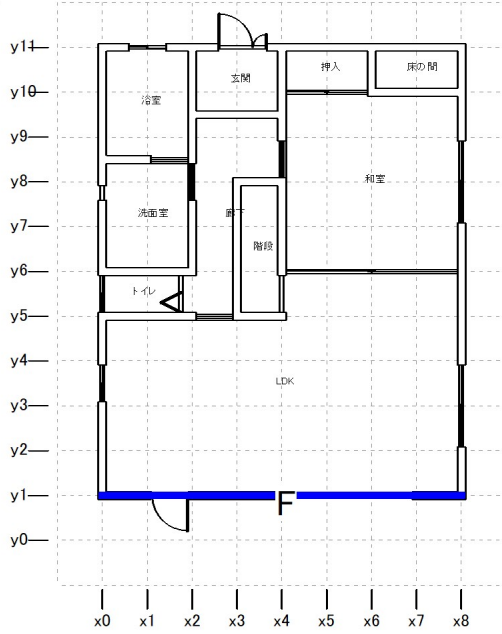
# 11. 外皮等面積根拠図 (外壁<南西>)

日付:2025年12月08日 9:45:15

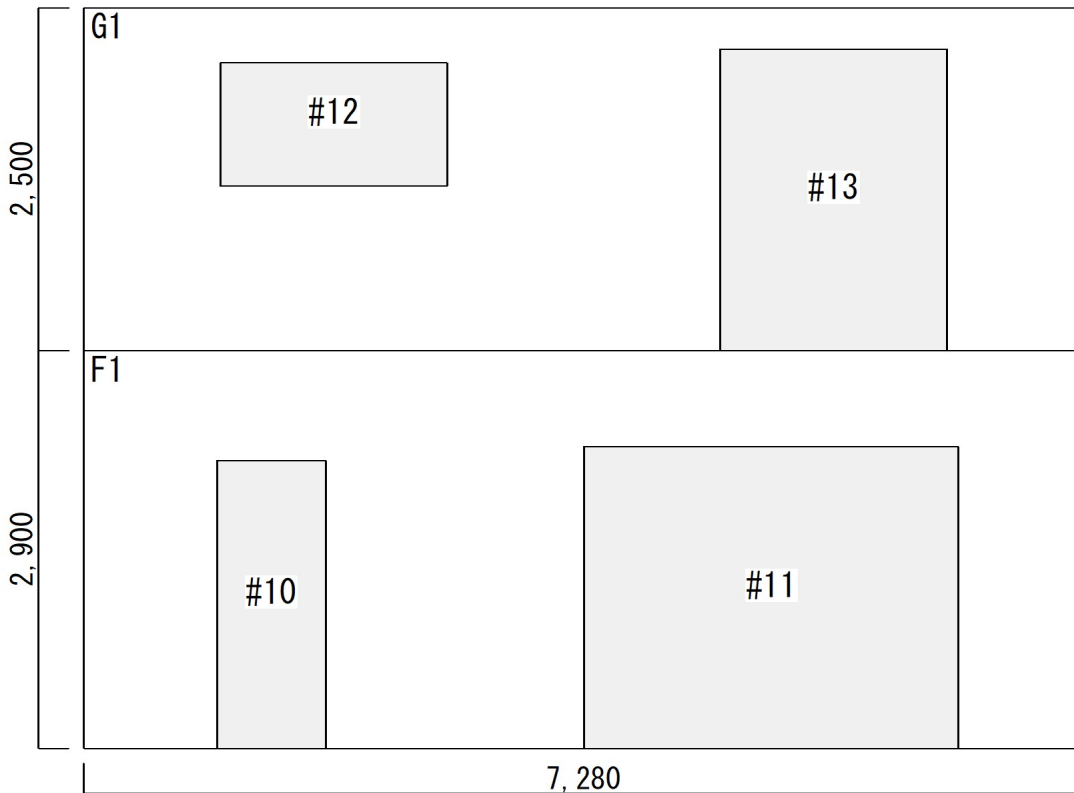
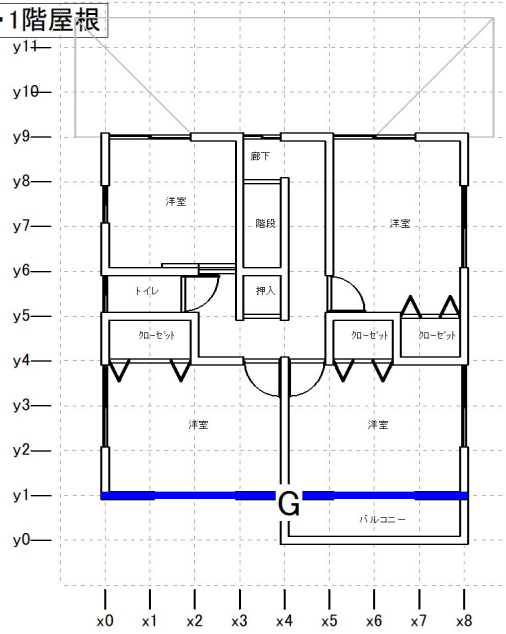
建物コード:000000

建物名:テスト

1階壁



2階壁・1階屋根



アルファベット大文字(A1、A2・・・):外壁 #数字(#1、#2・・・):開口部

平成28年  
省エネ基準

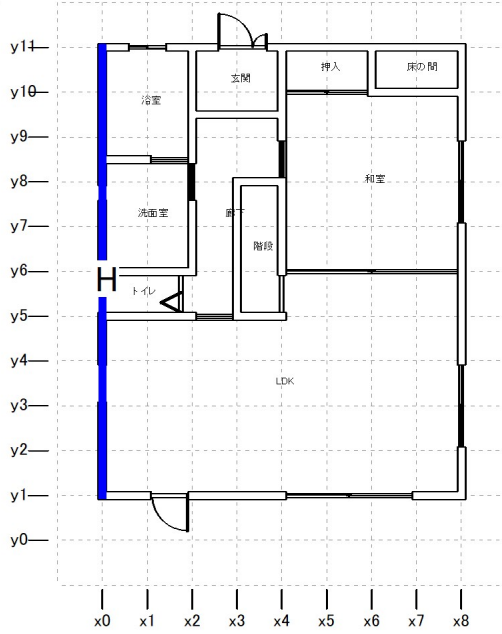
# 11. 外皮等面積根拠図 (外壁<北西>)

日付:2025年12月08日 9:45:15

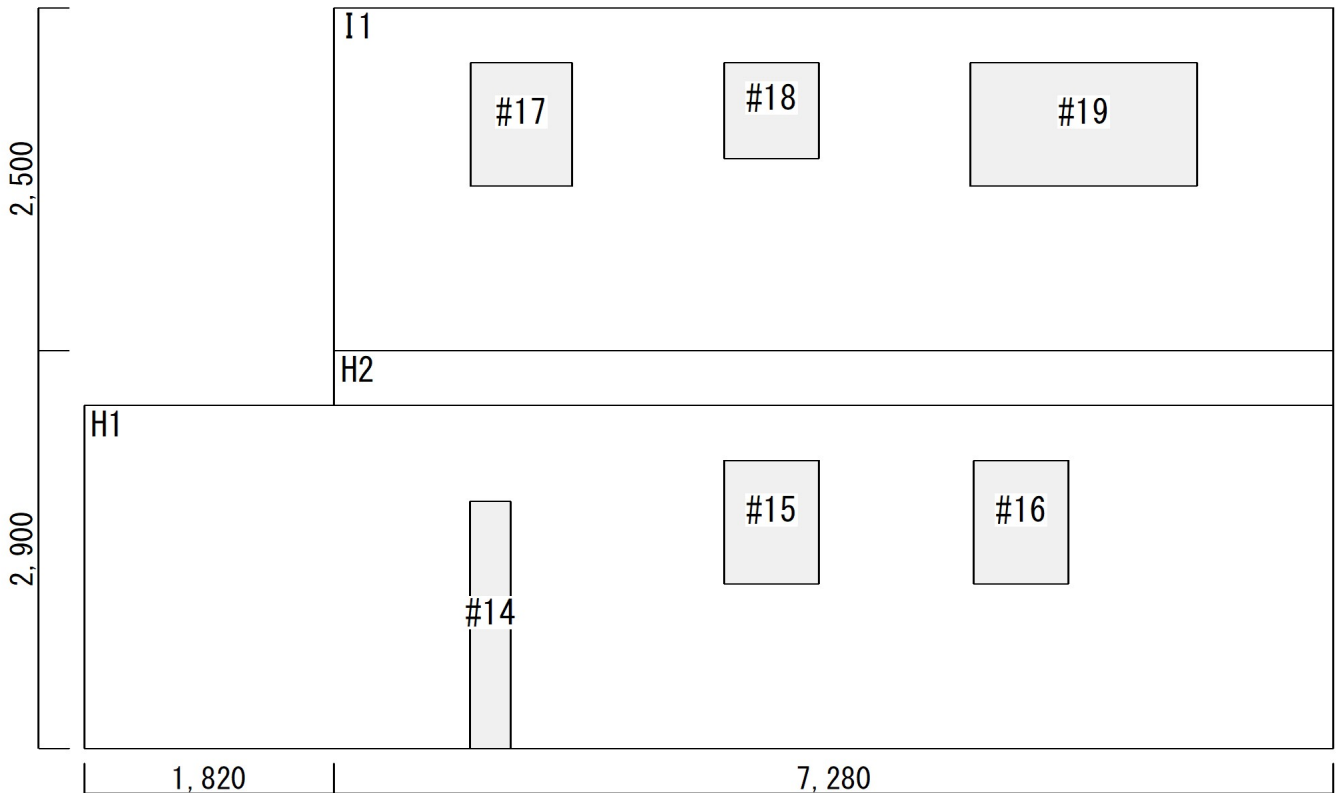
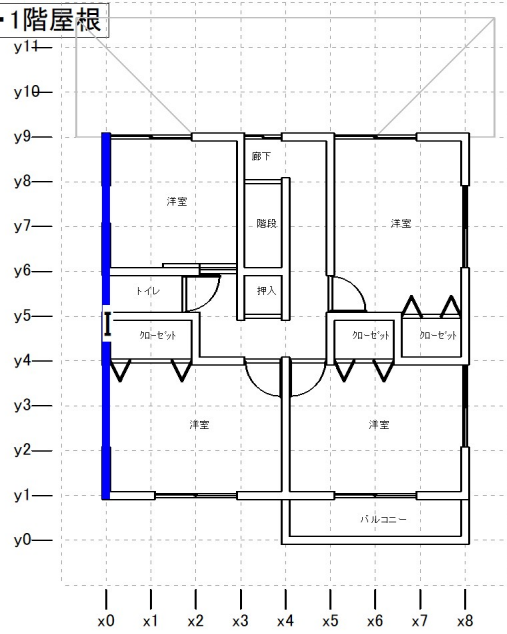
建物コード:000000

建物名:テスト

1階壁



2階壁・1階屋根



アルファベット大文字(A1、A2・・・):外壁 #数字(#1、#2・・・):開口部

平成28年  
省エネ基準

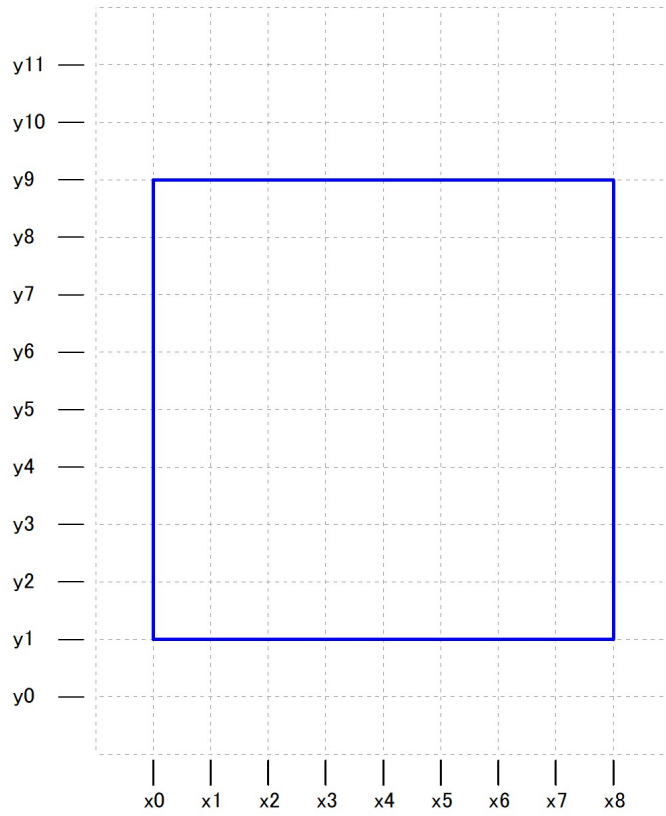
# 11. 外皮等面積根拠図 (床・土間床・基礎)

日付: 2025年12月08日 9:45:15

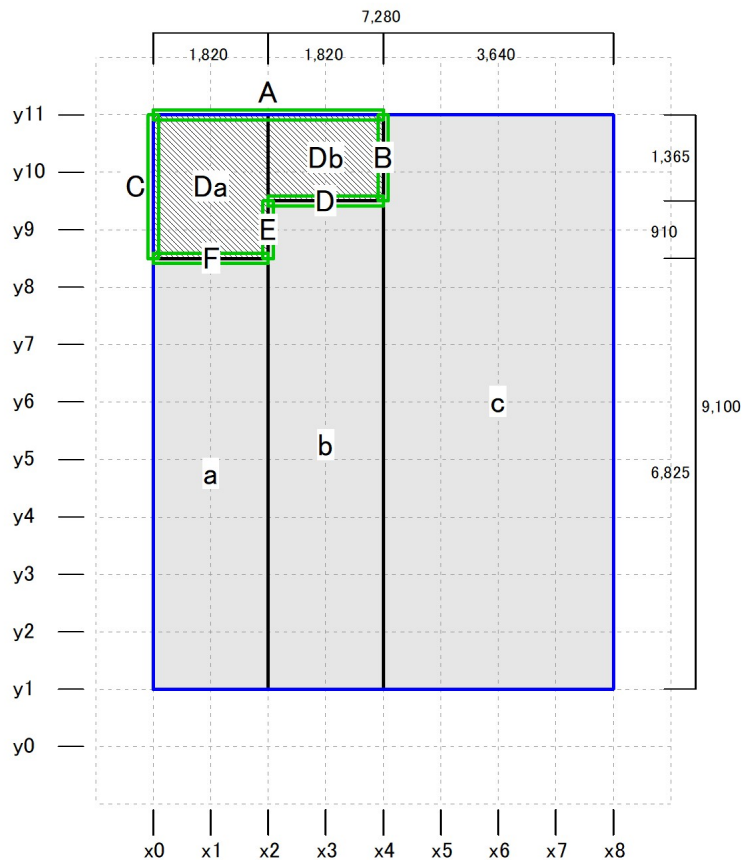
建物コード: 000000

建物名: テスト

2階



1階



縮尺 1/120

【凡例】 床断熱範囲 土間床範囲 基礎立上り 外周線



## 【算定条件】

### ▼基本情報

床面積	主たる居室 (㎡)	29.81
	その他の居室 (㎡)	50.51
	床面積の合計 (㎡) ※床面積の合計には非居室を含みます	119.24
省エネルギー基準地域区分		6地域
年間の日射地域区分 (参考)		A4区分

### ▼外皮性能

外皮等面積の合計 $\Sigma A$ (㎡)	298.84
外皮平均熱貫流率 UA値 (W/㎡K)	0.89
冷房期の平均日射取得率 $\eta_{AC}$ ((W/㎡)/(W/㎡))	2.6
暖房期の平均日射取得率 $\eta_{AH}$ ((W/㎡)/(W/㎡))	2.0

## 13. 居室面積計算表

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

## 【床面積根拠】

合計	主たる居室(m <sup>2</sup> )	その他の居室(m <sup>2</sup> )	非居室(m <sup>2</sup> )
居室分類ごとの床面合計 (m <sup>2</sup> )	29.81	50.51	38.92
床面積の合計 (m <sup>2</sup> )	119.24		

階	部屋名	計算式	主たる居室(m <sup>2</sup> )	その他の居室(m <sup>2</sup> )	非居室(m <sup>2</sup> )
1	9 LDK	$3.640 \times 4.550 + 3.640 \times 3.640$	29.811600	-	-
2	1 洋室	$2.730 \times 2.730$	-	7.452900	-
	3 洋室	$2.730 \times 3.640$	-	9.937200	-
	10 洋室	$3.640 \times 2.730$	-	9.937200	-
	11 洋室	$3.640 \times 2.730$	-	9.937200	-
1	5 和室	$3.640 \times 3.640$	-	13.249600	-
2	2 廊下	$0.910 \times 4.550 + 0.228 \times 0.910 + 0.910 \times 0.910 + 0.910 \times 0.910 + 0.910 \times 1.820$	-	-	7.660380
	4 階段	$0.910 \times 1.820$	-	-	1.656200
	5 トイレ	$1.593 \times 0.910$	-	-	1.449630
	6 押入	$0.910 \times 0.910$	-	-	0.828100
	7 クローゼット	$1.820 \times 0.910$	-	-	1.656200
	8 クローゼット	$1.365 \times 0.910$	-	-	1.242150
	9 クローゼット	$1.365 \times 0.910$	-	-	1.242150
1	1 浴室	$1.820 \times 2.275$	-	-	4.140500
	2 玄関	$1.820 \times 1.365$	-	-	2.484300
	3 押入	$1.820 \times 0.910$	-	-	1.656200
	4 床の間	$1.820 \times 0.910$	-	-	1.656200
	6 廊下	$0.910 \times 1.365 + 0.228 \times 0.910 + 0.910 \times 4.095$	-	-	5.176080
	7 洗面室	$1.820 \times 2.275$	-	-	4.140500
	8 階段	$0.910 \times 2.730$	-	-	2.484300
	10 トイレ	$1.593 \times 0.910$	-	-	1.449630
2階合計(m <sup>2</sup> )			0.000000	37.264500	15.734810
1階合計(m <sup>2</sup> )			29.811600	13.249600	23.187710
建物合計(m <sup>2</sup> )			29.811600	50.514100	38.922520



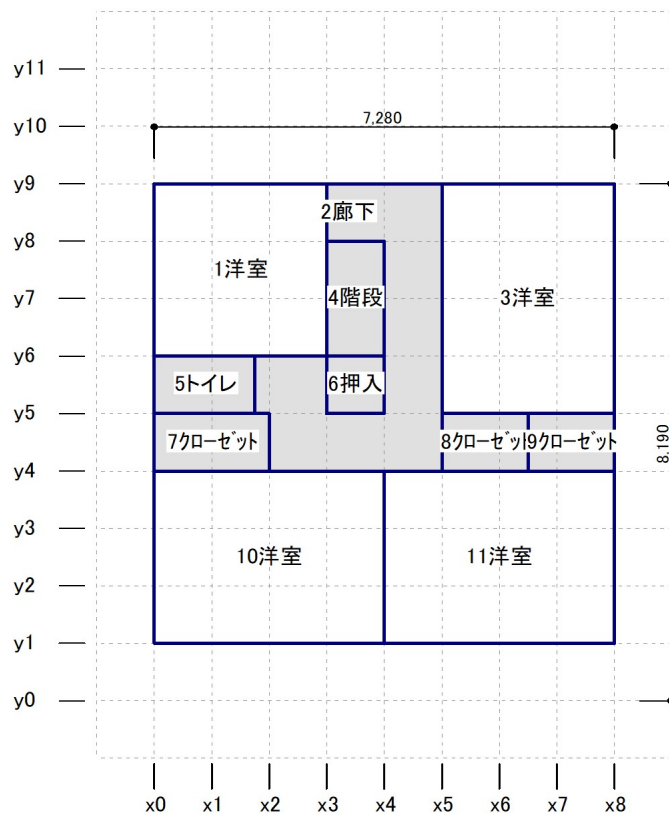
# 14. 居室面積根拠図

日付: 2025年12月08日 9:45:15

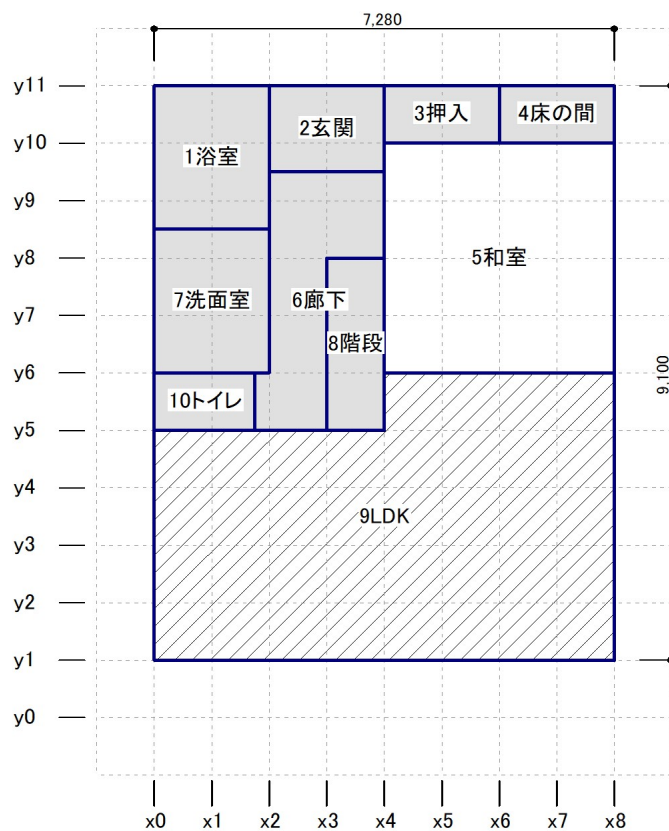
建物コード: 000000

建物名: テスト

2階



1階



縮尺 1/120



【凡例】 主たる居室 その他の居室 非居室

床面積 主たる居室: 29.81㎡ その他の居室: 50.51㎡ 非居室: 38.92㎡ 合計: 119.24㎡

15. 暖房期の平均日射熱取得率  
( $\eta$  AH値)計算表<1>日付: 2025年12月08日 9:45:15  
建物コード: 000000  
建物名: テスト

外皮等面積の合計 $\Sigma A$ (㎡)	298.84
(は)窓の日射熱取得量 (W/(W/㎡))	3.583
(に)窓以外の日射熱取得量 (W/(W/㎡))	2.524
暖房期の日射熱取得量 $mH = (は) + (に)$ (W/(W/㎡))	6.11
暖房期の平均日射熱取得率 $\eta AH = mH / \Sigma A \times 100$ (-)	2.0

## 【窓以外の日射熱取得量】

方位	方位 係数 $\nu_H$	仕様	外皮等 面積 A (㎡)	熱貫 流率 U (W/㎡K)	日射熱 取得率 $\eta_H$ (W/㎡)/(W/㎡)	日射熱 取得量 $A \cdot \eta_H \cdot \nu_H$ (W/(W/㎡))
上面	1.000	天井 グラスウール10K100mm	66.25	0.45	0.015	0.993
北東	0.325	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	25.11	0.45	0.015	0.122
	0.325	妻壁 大壁充填 無断熱	6.89	2.34	0.080	0.179
	0.325	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	3.24	3.49	0.119	0.125
南東	0.833	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	37.26	0.45	0.015	0.465
南西	0.763	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	26.53	0.45	0.015	0.303
	0.763	(ドア)金属製熱遮断構造(ハニカムフラッシュ構造)ポストなし: 複層ガラス(ドアのガラス部)	1.66	3.49	0.119	0.150
北西	0.317	外壁 大壁充填 グラスウール16K100mm	39.45	0.45	0.015	0.187
下面	0.000	床 根太間 押出法ポリスチレンフォーム1種75mm	59.62	0.56	0.019	0.000
(に)窓以外の日射熱取得量 合計 (W/(W/㎡))						2.524

※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

※▲付きの仕様: 断熱改修により追加、変更された部分

日射熱取得率  $\eta_H$  $\eta_H = 0.034 \times f_a \times f_{shH} \times U$  (暖房期の日よけ効果係数  $f_{shH}$  および 外気側表面に応じた係数  $f_a$  は1.0として計算)▼暖房期の方位係数  $\nu_H$ 

方位	省エネルギー基準地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
屋根・上面	1.000							
北	0.260	0.263	0.284	0.256	0.238	0.261	0.227	-
北東	0.333	0.341	0.348	0.330	0.310	0.325	0.281	-
東	0.564	0.554	0.540	0.531	0.568	0.579	0.543	-
南東	0.823	0.766	0.751	0.724	0.846	0.833	0.843	-
南	0.935	0.856	0.851	0.815	0.983	0.936	1.023	-
南西	0.790	0.753	0.750	0.723	0.815	0.763	0.848	-
西	0.535	0.544	0.542	0.527	0.538	0.523	0.548	-
北西	0.325	0.341	0.351	0.326	0.297	0.317	0.284	-
下面	0.000							

15. 暖房期の平均日射熱取得率  
( $\eta$  AH値)計算表<2>

日付: 2025年12月08日 9:45:15

建物コード: 000000

建物名: テスト

## 【窓の日射熱取得量】

方位	方位 係数 $\alpha_H$	階	窓 番号	開口名	開口 仕様	遮蔽 物	窓幅  X2 (mm)	窓 高さ Y2 (mm)	外皮等 面積 A (㎡)	日よけ						取得日射熱 補正係数			日射熱 取得率		日射熱 取得量 $A \cdot \eta_H \cdot \alpha_H$ (W/(W/㎡))
										距離			長さ			fshH	fangH	fH	$\eta_d$	$\eta_H$	
										X1 (mm)	X3 (mm)	Y1 (mm)	Zx+ (mm)	Zx- (mm)	Zy+ (mm)						
北東	0.325	1	#2		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.064
	0.325	2	#3		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.155
	0.325	2	#4		261	0	690	700	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.050
	0.325	2	#5		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.155
南東	0.833	1	#6		261	2	1,650	1,100	1.82	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.140	0.071	0.107
	0.833	1	#7		261	1	1,650	1,100	1.82	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.300	0.153	0.231
	0.833	2	#8		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.398
	0.833	2	#9		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.398
南西	0.763	1	#11		261	2	2,730	2,200	6.01	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.140	0.071	0.325
	0.763	2	#12		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.364
	0.763	2	#13		261	0	1,650	2,200	3.63	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.889
北西	0.317	1	#14		261	0	300	1,800	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.054
	0.317	1	#15		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.063
	0.317	1	#16		261	0	690	900	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.063
	0.317	2	#17		261	0	740	900	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.068
	0.317	2	#18		261	0	690	700	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.048
	0.317	2	#19		261	0	1,650	900	1.49	-	-	-	-	-	-	-	-	(定)0.510	0.630	0.321	0.151
(は)窓の日射熱取得量 合計 (W/(W/㎡))																				3.583	

※★マーク付きで、網掛けの項目は設計者が任意に追加した仕様

※太枠で囲まれた欄: 断熱改修により変更された部分

## ▼開口仕様

261: 金属製: 複層ガラス(A8以上)

## ▼遮蔽物

0: 遮蔽物なし 1: 和障子 2: 外付ブラインド

## ▼日よけ

(規): 規定値4,000mmとして計算

(4m): 4,000mm以上のため、4,000mmとして計算

## ▼取得日射熱

補正係数fH(定)は、定数fH=0.51を使用していることを表す。

## ▼日射熱取得率

 $\eta_d$ : 垂直面日射熱取得率(窓と付属部材の組み合わせで定まる $\eta$ 値) $\eta_H$ : 日射熱取得率  $\eta_d \times fH$